

BUSICOM



BC-NL4200U
卓上 2Dバーコードリーダー
ユーザーガイド

免責事項

© 2022.株式会社ビジコム All rights reserved.

製品をご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、取扱説明書に従って操作してください。

今後のご使用のために取扱説明書を大切に保管してください。

スキャナーを解体したり、スキャナーからシリアルラベルやロゴをはがしたりしないでください。

その場合、ビジコムの保証の対象外となります。

この取扱説明書の写真は実際の製品と内容が異なる場合がございます。本製品の修正とアップデートについて、当社は、信頼性、性能、設計の改善のためソフトウェアまたはハードウェアをいつでも予告なくアップデートすることができます。ここで告知するアップデート情報は、事前告知を行わない変更が対象です。

この取扱説明書で説明する製品が当社またはサードパーティが著作権を有するソフトウェアが含まれている場合があります。お客様は個人または法人を問わず、著作権者から書面による同意を得ていない場合、当該ソフトウェアの全体または一部を流通、改造、逆コンパイル、逆アセンブル、解読、リバースエンジニアリング、貸与、譲渡またはサブライセンスが禁止されています。

この取扱説明書は著作権を有しております。当社から書面による許可を得ていない場合、方法を問わず内容の複製、流通または利用を禁止します。

当社は上記免責事項について最終的な解釈権を有しています。

株式会社ビジコム

東京都文京区関口1-20-10 住友不動産江戸川橋駅前ビル8階

<http://www.busicom.co.jp>

改訂履歴

バージョン	内容	日付
1.0.0	初版	2025年03月01日

目次

はじめに.....	1
概要.....	1
各章紹介.....	1
アイコンについて.....	2
第1章 使用開始.....	3
概要.....	3
第2章 システム設定.....	4
概要.....	4
バーコードプログラミング.....	4
コマンドプログラミング.....	4
プログラミングバーコード/プログラミングコマンド/機能.....	4
プログラミングコマンドの使用.....	5
プログラミングバーコードの使用.....	5
イルミネーション.....	6
グッドリードLED.....	7
グッドリードLED持続時間.....	8
電源ブザーのオン.....	9
グッドリードブザー.....	9
グッドリード持続時間.....	10
グッドリードブザーの周波数.....	11
グッドブザー音量.....	12
USBデータ送信エラーアラーム.....	13
スキャンモード.....	14
デコードセッションタイムアウト.....	15
手振れ補正タイムアウト (センスモード).....	16
読み取りタイムアウト.....	17
グッドリードのディレイ.....	19
画像デコードタイムアウト.....	20

GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む.....	21
感度.....	22
赤外線感度 (センスモード).....	23
Stop Scanningコマンドの変更.....	24
イルミネーションLED.....	25
ブザー音を設定.....	25
オートスリープ.....	25
バーコード別スキャン設定.....	27
電源オン後のバーコード読み取り.....	28
バーコード読み取りのオン/オフ.....	28
読み取りエラーメッセージ.....	29
読み取りエラーメッセージの設定.....	29
初期設定.....	30
工場出荷時設定.....	30
カスタムデフォルト.....	30
製品情報クエリ.....	31
製品名クエリ.....	31
ファームウェアバージョンクエリ.....	31
デコーダーバージョンクエリ.....	31
ハードウェアバージョンクエリ.....	32
製品シリアル番号クエリ.....	32
OEMシリアル番号クエリ.....	32
製造日クエリ.....	32
データフォーマットバージョンクエリ.....	32
第3章 USBインターフェース.....	33
概要.....	33
USB HIDキーボード.....	33
USB国別キーボードタイプ.....	34
不明な文字の警告ブザー.....	38
Emulate ALT+キーパッド.....	39
先行ゼロ付きキーボードエミュレーション.....	43
ASCII ファンクションキーマッピング表.....	44
ASCII ファンクションキーマッピング表 (続き).....	45

キーストローク間の遅延.....	46
Caps Lock	46
大文字/小文字の切り替え.....	47
テンキーのエミュレート.....	49
ファストモード.....	51
ポーリングレート	52
USB CDC	54
HID POS (POS HIDバーコードスキャナー).....	54
概要.....	54
自分のプログラムでスキャナーへアクセス	54
スキャンデータの取得	55
コマンドをスキャナーへ送信.....	55
VID/PID	56
第4章 シンボロジー.....	57
概要.....	57
グローバル設定	57
全てのシンボロジーを有効化/無効化.....	57
1次元シンボロジーを有効化/無効化	57
2次元シンボロジーを有効化/無効化	58
Video Reverse.....	58
1次元ツインコード	60
Code 128.....	61
工場出荷時設定に戻す	61
Code 128を有効化/無効化	61
Code 128の長さ調節.....	62
チェックキャラクタの送信	63
FNC1出力	63
EAN-8.....	64
工場出荷時設定に戻す	64
EAN-8を有効化/無効化	64
チェックキャラクタの送信	64
2桁のアドオンコード	65
5桁のアドオンコード.....	66

アドオンコードのリクエスト	67
EAN-8からEAN-13へ変換	67
EAN-13	68
工場出荷時設定に戻す	68
EAN-13を有効化/無効化	68
チェックキャラクタの送信	69
2桁のアドオンコード	69
5桁のアドオンコード	70
アドオンコードのリクエスト	71
290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	72
378または379で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	72
414または419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	73
434または439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	74
977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	74
978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	75
979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	76
UPC-E	77
工場出荷時設定に戻す	77
UPC-Eを有効化/無効化	77
チェックキャラクタの送信	78
2桁のアドオンコード	78
5桁のアドオンコード	79
アドオンコードのリクエスト	80
プリアンブルキャラクタの送信	80
UPC-EからUPC-Aへ変換	81
UPC-A	82
工場出荷時設定に戻す	82
UPC-Aを有効化/無効化	82
チェックキャラクタの送信	82
2桁のアドオンコード	83
5桁のアドオンコード	84
アドオンコードのリクエスト	85
プリアンブルキャラクタの送信	85

インタリーブド 2 of 5	86
工場出荷時設定に戻す	86
インタリーブド 2 of 5を有効化/無効化	86
インタリーブド 2 of 5の長さ調節	87
チェックキャラクタ認証.....	88
Febraban.....	89
Febrabanを有効化/無効化.....	89
キャラクタ間送信ディレイ	89
ITF-14.....	92
工場出荷時設定に戻す	92
ITF-14を有効化/無効化	92
ITF-6.....	93
工場出荷時設定に戻す	93
ITF-6を有効化/無効化	93
Matrix 2 of 5	94
工場出荷時設定に戻す	94
Matrix 2 of 5を有効化/無効化	94
Matrix 2 of 5の長さ調節	95
チェックキャラクタ認証.....	96
Code 39.....	97
工場出荷時設定に戻す	97
Code 39を有効化/無効化.....	97
Code 39の長さ調節.....	98
チェックキャラクタ認証.....	99
スタートキャラクタ/ストップキャラクタの送信	100
Code 39 フルアスキーを有効化/無効化	100
Code 32 (イタリア製薬業界用コード) を有効化/無効化	101
Code 32 プリフィックス	101
Code 32スタートキャラクタ/ストップキャラクタの送信	102
Code 32チェックキャラクタの送信.....	102
Codabar	103
工場出荷時設定に戻す	103
Codabarを有効化/無効化	103

Codabarの長さ調節	104
チェックキャラクタ認証.....	105
スタートキャラクタ/ストップキャラクタ	106
Code 93	107
工場出荷時設定に戻す	107
Code 93を有効化/無効化	107
Code 93の長さ調節.....	108
チェックキャラクタ認証.....	109
GS1-128 (UCC/EAN-128)	110
工場出荷時設定に戻す	110
GS1-128を有効化/無効化.....	110
GS1-128の長さ調節.....	111
チェックキャラクタの送信	112
FNC1 出力.....	112
GS1 Databar (RSS)	113
工場出荷時設定に戻す	113
GS1 Databarを有効化/無効化.....	113
アプリケーション識別子「01」を送信.....	113
Code 11	114
工場出荷時設定に戻す	114
Code 11を有効化/無効化	114
Code 11の長さ調節.....	115
チェックキャラクタ認証.....	116
チェックキャラクタの送信	117
ISBN	118
工場出荷時設定に戻す	118
ISBNを有効化/無効化.....	118
ISBNフォーマットの設定	118
2桁のアドオンコード	119
5桁のアドオンコード	120
アドオンコードをリクエスト.....	121
ISSN	122
工場出荷時設定に戻す	122

ISSNを有効化/無効化.....	122
2桁のアドオンコード.....	123
5桁のアドオンコード.....	124
アドオンコードのリクエスト.....	125
インダストリアル25.....	126
工場出荷時設定に戻す.....	126
インダストリアル25を有効化/無効化.....	126
インダストリアル25の長さ調節.....	127
チェックキャラクタ認証.....	128
スタンダード 25.....	129
工場出荷時設定に戻す.....	129
スタンダード 25を有効化/無効化.....	129
スタンダード 25の長さ調節.....	130
チェックキャラクタ認証.....	131
Plessey.....	132
工場出荷時設定に戻す.....	132
Plesseyを有効化/無効化.....	132
Plesseyの長さ調節.....	133
チェックキャラクタ認証.....	134
MSI-Plessey.....	135
工場出荷時設定に戻す.....	135
MSI-Plesseyを有効化/無効化.....	135
MSI-Plesseyの長さ調節.....	136
チェックキャラクタ認証.....	137
チェックキャラクタの送信.....	138
AIM 128.....	139
工場出荷時設定に戻す.....	139
AIM 128を有効化/無効化.....	139
AIM 128の長さ調節.....	140
チェックキャラクタの送信.....	141
FNC1出力.....	141
PDF417.....	142
工場出荷時設定に戻す.....	142

PDF417を有効化/無効化.....	142
PDF417の長さ調節.....	143
PDF417 ツインコード.....	144
白黒反転PDF417コード.....	145
文字エンコード.....	146
PDF417 ECI出力.....	146
QR コード.....	147
工場出荷時設定に戻す.....	147
QRコードを有効化/無効化.....	147
QRコードの長さ調節.....	148
QR ツインコード.....	149
文字エンコード.....	150
QR ECI 出力.....	150
Micro QRコード.....	151
工場出荷時設定に戻す.....	151
Micro QRを有効化/無効化.....	151
Micro QRコードの長さ調節.....	152
データマトリックス.....	153
工場出荷時設定に戻す.....	153
データマトリックスを有効化/無効化.....	153
データマトリックスの長さ調節.....	154
データマトリックスツインコード.....	155
長方形バーコード.....	156
文字エンコード.....	157
データマトリックスコードのECI 出力.....	157
第5章 データフォーマット.....	158
概要.....	158
データフォーマットを追加.....	158
バーコードによるプログラミング.....	159
シリアルコマンドによるプログラミング.....	161
データフォーマットを有効化/無効化.....	163
非適合エラー通知ブザー.....	165
データフォーマット選択.....	165

シングルスキャンでデータフォーマットを切り替え	166
データフォーマットをクリア	167
データフォーマットをクエリ	167
データフォーマットコマンドタイプ6	167
送信コマンド	168
移動コマンド	173
検索コマンド	175
比較コマンド	178
その他コマンド	181
第6章 プリフィックス&サフィックス	186
概要	186
グローバル設定	186
全てのプリフィックス/サフィックスを有効化/無効化	186
プリフィックスシーケンス	187
カスタムプリフィックス	187
カスタムプリフィックスを有効化/無効化	187
カスタムプリフィックスの設定	187
AIM ID プリフィックス	188
Code ID プリフィックス	188
全てのデフォルトのCode IDを復元	189
Code IDを変更	190
1次元シンボロジー	190
カスタムサフィックス	195
カスタムサフィックスを有効化/無効化	195
カスタムサフィックスの設定	195
データパッキング	196
概要	196
データパッキングオプション	196
ストップキャラクタサフィックス	197
ストップキャラクタサフィックスを有効化/無効化	197
ストップキャラクタサフィックスの設定	198
第7章 バッチプログラミング	199

概要	199
バッチコマンドの作成	200
バッチバーコードの作成	200
バッチバーコードの使用	201
付録	202
英数字バーコード	202
バーコードを保存/キャンセル	205
工場出荷時設定表	206
赤外線感度（センスモード）	206
AIM ID表	214
Code ID 表	216
シンボロジーID 番号	217
ASCII 表	218
Unicodeキーマップ	222
アメリカ式キーボード（104 キー）	222

はじめに

概要

この取扱説明書では **BC-NL4200U** ワイヤレスバーコードスキャナー（以下、「スキャナー」）の設定方法と使用法を詳しく説明します。

各章紹介

第1章 使用開始	: BC-NL4200U スキャナーの一般的特徴を説明します。
第2章 システム設定	: 3つの設定方法を紹介し、 FR42-BT の一般的なパラメータ設定について説明します。
第3章 USBインターフェース	: USB通信のパラメータ設定について説明します。
第4章 シンボロジー	: 各種互換性のあるシンボロジー一覧と、関連するパラメータの設定方法について説明します。
第5章 データフォーマット	: データフォーマットでスキャンデータをカスタマイズする方法を説明します。
第6章 プリフィックス&サフィックス	: プリフィックスとサフィックスでスキャンデータをカスタマイズする方法について説明します。
第7章 プリフィックス&サフィックス	: プリフィックスとサフィックスでスキャンデータをカスタマイズする方法について説明します。
付録	: 工場出荷時のデフォルト仕様表と、よく使用するプログラミング用バーコードを網羅しています。

アイコンについて



このアイコンは本書の関連事項を示しています。



このアイコンは使用者が注意すべきことを示しています。



このアイコンはスキャナーを簡単に操作、設定できる便利なヒントを示しています。



このアイコンは操作方法を覚えるのに役立つ実例を示しています。

第1章 使用開始

概要

スキャナーは画像をキャプチャして1次元/2次元バーコードを読み取ります。

本スキャナーは主流となっている1次元バーコードに加え、標準的な2次元バーコード(各種PDF417、QR Code M1/M2/Micro、データマトリックス)、GS1-DataBarTM (RSS) バーコード (Limited、Stacked、Expandedなどを含む)を読み取ることができます。

本製品は紙製、プラスチックカード、LCD、その他各印刷媒体、ディスプレイのバーコードを読み取ることができ、高い性能を誇ります。また、様々なアプリケーションを組み込むことで、超軽量かつ作業スペースを取らないオールインワン設計です。

第2章 システム設定

概要

スキャナーの設定方法は、バーコードプログラミング、コマンドプログラミングの2種類があります。

バーコードプログラミング

スキャナーはプログラミングバーコードをスキャンして設定することができます。次のセクションでは、ユーザーがプログラム可能な機能/オプションをプログラミングバーコード/コマンドと一緒に説明します。

このプログラミング方法が最も簡単です。しかし、手動でバーコードのスキャンが必要です。その結果、エラーが発生しやすくなります。

コマンドプログラミング

スキャナーはホスト機器から送信されるシリアルコマンドで設定することもできます。

ユーザーはアプリケーションプログラムを設計して、そのコマンド文字列をスキャナーへ送信し、デバイスの設定を実行できます。

プログラミングバーコード/プログラミングコマンド/機能





@SETUPE1

**** Enter Setup**

上の図は設定機能に **Enter Setup (設定開始)** 機能用のプログラミングバーコードとプログラミングコマンドの例です。

1. **No Case Conversion** バーコードです。

2. **No Case Conversion** コマンドです。

3. 機能/オプションの説明です。

****** 工場出荷時の設定を表しています。

プログラミングコマンドの使用

バーコードプログラミングの方法以外に、スキャナーはホスト機器から受信するシリアルコマンド(HEX)で設定することもできます。コマンドは全て大文字で入力する必要があります

プログラミングバーコードの使用

Enter Setup (設定開始) バーコードをスキャンするとスキャナーの設定モードを開始できます。続いてプログラミングバーコードの数字をスキャンして、スキャナーの設定を行うことができます。設定モードを終了する場合、**Exit Setup (設定終了)** バーコードまたは非プログラミングバーコードをスキャンするか、スキャナーを再起動します。



@SETUPE0

**** Exit Setup (設定開始)**



@SETUPE1

Enter Setup (設定終了)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

プログラミングバーコードのデータ（プログラミングバーコード下の文字など）はホスト機器に送信できます。下の適切なバーコードをスキャンして、プログラミングバーコードのデータのホスト機器への送信を有効化または無効化できます。



#SETUPT0

**** Do Not Transmit Programming Barcode Data**

(プログラミングバーコードデータを送信しない)



#SETUPT1

Transmit Programming Barcode Data

(プログラミングバーコードデータを送信)

イルミネーション



@ILLSCN1

**** On (オン)**



@ILLSCN0

Off (オフ)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

グッドリードLED

緑色の LED はグッドリードの表示のオンとオフを設定できます。



@GRLENA1

**** On**



@GRLENA0

Off



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

グッドリードLED持続時間

このパラメータはグッドリードLEDの次のグッドリードまでの持続時間を設定します。1ms単位で1msから10,000msまで設定できます。



@GRLDUR20

**** Short (短 : 20ms)**



@GRLDUR120

Medium (中 : 120ms)



@GRLDUR220

Long (長 : 220ms)



@GRLDUR320

Prolonged(延長 : 320ms)



@GRLDUR

Custom (カスタム : 1 - 10,000ms)

E
xample

グッドリードLED持続時間を800msに設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Custom** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

電源ブザーのオン

スキャナーは電源を入れるとブザーが鳴るようにプログラムできます。電源オン時のブザーが不要な方は Off バーコードをスキャンしてください。



@PWBENA1

**** On**



@PWBENA0

Off

グッドリードブザー

Off バーコードをスキャンするとバーコード読み取り成功を意味するブザーが鳴ります。On バーコードをスキャンするともう一度読み取ります。



@GRBENA1

**** On**



@GRBENA0

Off



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

グッドリード持続時間

このパラメータでは、スキャナーのグッドリードブザーの長さを設定します。20msから300msまで、1ms単位で設定可能です。



@GRBDUR40

Short (短 : 40ms)



@GRBDUR80

**** Medium (中 : 80ms)**



@GRBDUR120

Long (長 : 120ms)



@GRBDUR

Custom (カスタム : 20 – 300ms)

E
xample

グッドリードブザー持続時間を200msに設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Custom** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

グッドリードブザーの周波数

このパラメータでは、周波数を20Hzから20,000Hzまで1Hz単位でプログラムできます。



@GRBFRQ800

Extra Low (超低 : 800Hz)



@GRBFRQ1600

Low (低 : 1600Hz)



@GRBFRQ2730

**** Medium (中 : 2730Hz)**



@GRBFRQ4200

High (高 : 4200Hz)



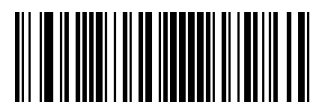
@GRBFRQ

Custom (カスタム : 20 - 20,000Hz)

E
xample

グッドリードブザー周波数を200Hzに設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Custom** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**

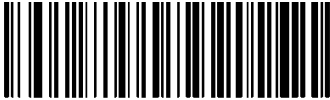


@SETUPE1

**** Enter Setup**

グッドブザー音量

音量を 20 段階からお好みで設定できます。



@GRBVLL20

**** Loud (大音量)**



@GRBVLL2

Low (小音量)



@GRBVLL7

Medium (中音量)



@GRBVLL

Custom(カスタム : 1-20)

Example

グッドブザーの音量をレベル8に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Custom Volume**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

USBデータ送信エラーアラーム



@USBFA1

Beeper Alarm (アラームブザー)



@USBFA0

**** Off**



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

スキャンモード

◇ **Sense Mode (センスモード)** : 周囲の明るさの変化を検知するたびに、手ぶれ補正のタイムアウトを待つでデコードセッションを開始します。デコードセッションは、バーコードがデコードされるか、デコードセッションのタイムアウトが終了するまで続きます。Timeout between Decodes (Same Barcode) (同じバーコードのデコード間タイムアウト) は、指定時間内に同じバーコードを再読してしまうことを防ぐことができます。Sensitivity (感度) は、周囲の明るさの変化に対する Sense Mode の感度を変えることができます。

◇ **Continuous Mode (常時点灯モード)** : スキャナーが次から次へと自動的にデコードセッションを開始します。トリガーを押すだけでバーコードの読み取りを中断または再開できます。Timeout between Decodes (デコード間 : 同じバーコード) は指定の時間内に同じバーコードの不要な読み込みを防止することができます。



@SCNMOD2

****Sense Mode (センスモード)**



@SCNMOD3

Continuous Mode (常時点灯モード)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

デコードセッションタイムアウト

スキャンを試みる間継続するデコードセッションタイムアウトの最大時間を設定するパラメータです。1msから3,600,000msまで、1ms単位で設定可能です。

注意：0msに設定を行わないようにお願いします。



@ORTSET

Decode Session Timeout

(デコードセッションタイムアウト)

E
xample

デコードセッションタイムアウトを1,500msに設定する方法:

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Decode Session Timeout** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「5」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**

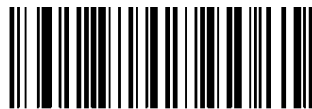


@SETUPE1

**** Enter Setup**

手振れ補正タイムアウト (センスモード)

このパラメータは、スキャナーがバーコードをデコード後、他のバーコードを「見る」際に周囲の環境に適応する時間を指定します。0msから3,000msまで、1ms単位で設定可能です。初期設定は500msです。



@SENIST

Image Stabilization Timeout
(手振れ補正タイムアウト)

E
xample

手振れ補正タイムアウトを800msに設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Image Stabilization Timeout** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

読み取りタイムアウト

読み取りタイムアウトは指定の時間内に同じバーコードを誤ってスキャンすることを防止します。この機能はセン
スモードと連続モードのみ適用できます。

Enable Reread Timeout（読み取りタイムアウトの有効化）：スキャナーが読み取りタイムアウトが時間切れになる前
に二重読み取りできなくなります。：

Disable Reread Timeout（読み取りタイムアウトの無効化）：スキャナーは同じバーコードを二重読み取りできます。



@RRDENA1

****Enable Reread Timeout**

（読み取りタイムアウトの有効化）：



@RRDENA0

Disable Reread Timeout

（読み取りタイムアウトの無効化）

以下のパラメータは同じバーコードを連続して読み取る際の時間間隔を設定します。0msから3,600,000msまで、
1ms単位で設定可能です。3000より大きな値に設定すると、プログラミングバーコードの読み取りタイムアウトは
3,000msに制限されます。初期設定は800msです。



@RRDDUR

Set Reread Timeout（読み取りタイムアウト）

E
xample

読み取りタイムアウトを1,000msに設定する方法

1. Enter Setupバーコードをスキャンします。
2. Timeout between Decodes (Same Barcode) バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」
をスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションのSave バーコードをスキャンします。

5. Exit Setup バーコードをスキャンします。

読み取りタイムアウトが時間切れになる前に直前に読み取った同じバーコードをスキャナーが二重読み取りしてしまう場合、読み取りタイムアウトを再設定できます。この機能を有効化する場合、Reread Timeout Reset On（読み取りタイムアウトのリセットをオン）バーコードを設定します。この機能はReread Timeout が有効な場合のみ有効です。



@RRDREN1

Reread Timeout Reset On

(読み取りタイムアウトのリセットをオン)



@RRDREN0

**** Reread Timeout Reset Off**

(読み取りタイムアウトのリセットをオフ)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

グッドリードのディレイ

グッドリードのディレイはスキャンエンジンが次のバーコードを読み取る最小時間の数値を設定します。このパラメータは 100ms から 3,600,000ms まで、1ms 単位でプログラム可能です。初期設定は 500ms です。以下の適切なバーコードをスキャンしてディレイを有効化または無効化できます。



@GRDENA1

Enable Good Read Delay

(グッドリードのディレイを有効化)



@GRDENA0

**** Disable Good Read Delay**

(グッドリードのディレイを無効化)

グッドリードのディレイを設定する場合、以下のバーコードをスキャンした後、英数字バーコードをスキャンしてディレイ (1ms~3,600,000ms)を設定後、付録の **Save** バーコードをスキャンします。



@GRDDUR

Good Read Delay (グッドリードのディレイ)

E
xample

グッドリードのディレイを **1,000ms** に設定する方法

1. **Good Read Delay** をスキャンします。
2. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

画像デコードタイムアウト

画像デコードタイムアウトはスキャナーが画像のデコードにかかる最大時間を指定します。このパラメータは1msから3,000msまで、1ms単位で設定可能です。初期設定のタイムアウトは500msです。



@DETSET

Image Decoding Timeout

(画像デコードタイムアウト)

E
xample

画像デコードタイムアウトを1,000msに設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Image Decoding Timeout** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む

Surround GS1 AI's with Parentheses (GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む) を選択した場合、スキャンされたデータを含むアプリケーション識別子 (AI) は出力メッセージの括弧で囲まれます。



@GS1AIP0

**** Do Not Surround GS1 AI's with Parentheses**

(GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲まない)

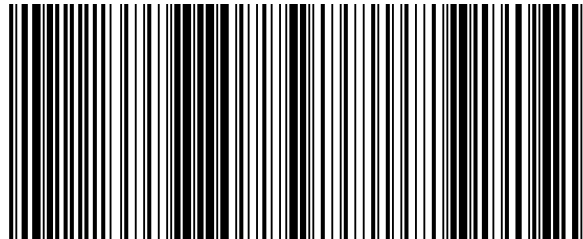


@GS1AIP1

Surround GS1 AI's with Parentheses

(GS1アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む)

E
xample



(01) 0 0614141 99999 6 (10) 10ABCEDF123456

Surround GS1 AI's with Parentheses を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

(01)00614141999996(10)10ABCEDF123456

Do Not Surround GS1 AI's with Parentheses を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

01006141419999961010ABCEDF123456



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

感度

感度はキャプチャされた画像の変化に対するスキャナーの反応の感度を指定します。感度が高くなると、スキャナーをトリガーする画像変更の要件が低くなります。利用環境に応じた適切な感度を選択することができます。この機能はセンスモードのみ有効です。レベルを20段階で設定することができます。初期設定は中(レベル5)です。



@SENLVL14

Low Sensitivity (低感度)



@SENLVL11

Medium Sensitivity (中感度)



@SENLVL8

High Sensitivity (高感度)



@SENLVL5

**** Enhanced Sensitivity (強化感度)**



@SENLVL

Custom Sensitivity (カスタム感度 : 1-20)

E
xample

感度をレベル10に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Custom Sensitivity** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**

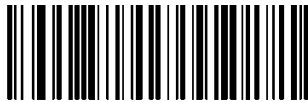


@SETUPE1

**** Enter Setup**

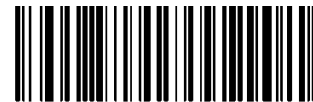
せ (センスモード)

この機能は、センスモードにのみ適用されます。1から10までプログラム可能です。初期設定はHigh(3)です。



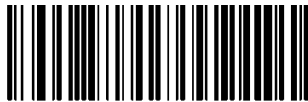
@SENIRL9

Low (低)



@SENIRL6

Medium (中)



@SENIRL3

**** High (高)**



@SENIRL

Custom (カスタム)

E
xample

感度をレベル10に設定する方法:

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Custom** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

E
xample

Start Scanningコマンド「*T」に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Modify Start Scanning Command**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「A」、「5」、「4」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。

Stop Scanningコマンドの変更

Stop Scanning（スキャン停止）コマンドは1～10文字（0x01から0xFFまでのHEX値）で構成することができます。このコマンドでは、文字「?」（HEX:0x3F）は最初の文字に設定できません。初期設定の**Stop Scanning** コマンドは<SOH> P<EOT>です。



@SCNTCP

Modify Stop Scanning Command
(Stop Scanningコマンドの変更)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

** Enter Setup

イルミネーションLED

スキャナーを一定時間強制的に発光できます。

LEDONxCyD (x: LEDの色を指定 (0:赤、1:白、2:緑、3:青)、対応する色はEasysetで指定可能。間の長さを10ms～3,600,000msの範囲で指定)

例: 赤いLDEを1分間発光

入力: ~<SOH>0000#LEDONS0C60000D;<ETX>

レスポンス: <STX><SOH>0000#LEDONS0C60000D<ACK>;<ETX>

ブザー音を設定

ホスト機器から送信されるコマンドに応じて、スキャンエンジンにブザー音を強制的に鳴らすことができます。ブザー音は、エラーやその他の重要なイベントに対してユーザーの注意を喚起するために鳴らします。

BEEPONxxxFyyyTnnV (xxx : 指定する周波数 (1～20,000Hz)、yyy : yyy: 1～10,000ms、nn: 1～20 (最小～最大) の音量レベル)

例: 音量レベル2で2000Hz、20Vのブザーを50ms鳴らす

入力: ~<SOH>0000#BEEPON2000F50T20V;<ETX>

レスポンス: <STX><SOH>0000#BEEPON2000F50T20V <ACK>;<ETX>

オートスリープ

オートスリープはレベルモード/パルスモード中のスキャナーが一定時間（ユーザーがプログラム可能）操作または通信されていない場合、自動的にスリープまたは低電力モードへ移行させることができます。スキャナーがスリープモード中、トリガーを引くまたはコマンドをホスト機器から受信することでスキャナーのスリープを解除できます。スキャナーは200msで完全に操作状態に戻ります。



@ATIDLE0

Disable Auto Sleep (オートスリープを無効化)



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

**** Enter Setup**



@ATIDLE1

**** Enable Auto Sleep** (オートスリープを有効化)

以下のパラメータはスキャンエンジンがスリープモードに入る前のアイドル時間 (非操作または非通信時間) の長さを設定します。1msから65535msまで1ms単位で設定できます。初期設定値は500msです。



@ATIDUR

Time Period from Idle to Sleep (スリープまでのアイドル時間)

E
xample

スリープまでのアイドル時間を**1,000ms**に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Time Period from Idle to Sleep** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

バーコード別スキャン設定

Normal Mode (通常モード) : 紙のバーコードをスキャンする際、このモードを選択します。

Screen Mode (スクリーン画面モード) : 液晶画面のバーコードの読み取りを向上させます。その分、紙ベースは弱くなります。

High Motion Tolerance Mode (スクリーン画面強度モード) : 液晶画面のバーコードの読み取りを最大にします。その分、紙ベース等の読み取りは弱くなります。



@EXPLVL0

**** Normal Mode** (通常モード)



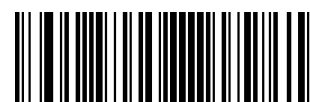
@EXPLVL2

Screen Mode (スクリーン画面モード)



@EXPLVL4

High MotionTolerance Pay Mode
(スクリーン画面強度モード)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

電源オン後のバーコード読み取り

Disable（無効化）：電源を入れた後、スキャナーはバーコードをデコードできません。イルミネーションとエイミングはオフです。**Read Barcode** コマンドをスキャナーへ送信して有効化することができます。

Enable（有効化）：電源を入れた後、スキャナーはバーコードをデコードできます。

この機能はインターフェースがUSBキーボードの場合は無効です。



@SCNPEN1

**** Enable（有効化）**



@SCNPEN0

Disable（無効化）

バーコード読み取りのオン/オフ

Read Barcode Off（バーコード読み取りオフ） コマンド（**~<SOH>0000#SCNENA0;<ETX>**）をスキャナーへ送信すると

バーコードを読み取りできなくなり、**Read Barcode On（バーコード読み取りオン）** コマンド

（**~<SOH>0000#SCNENA1;<ETX>**）をスキャナーが受信するか、電源を入れ直すと読み取ることができるようになります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

読み取りエラーメッセージ

以下の適正なバーコードをスキャンして、トリガーを離す前にグッドリードがされなかった場合、デコードセッションタイムアウトが時間切れの場合、スキャナーが**Stop Scanning**コマンドを受信した場合に、読み取りエラーメッセージ（ユーザーがプログラム可能）を送信するかを選択します（詳細は、本章の「シリアルトリガーコマンド」セクションを参照ください）。



@NGRENA0

**** Bad Read Message OFF**（読み取りエラーメッセージオフ）



@NGRENA1

Bad Read Message ON（読み取りエラーメッセージオン）

読み取りエラーメッセージの設定

読み取りエラーメッセージは、最大7文字（0x00～0xFFのHEX値）まで設定できます。読み取りエラーメッセージを設定する際、**Set Bad Read Message**バーコード、希望する文字のHEX値を表す英数字バーコード、および**Save**バーコードをスキャンします。初期設定は「NG」です。



@NGRSET

Set Bad Read Message（読み取りエラーメッセージの設定）

E
xample

読み取りエラーメッセージを「F」（HEX: 0x46）に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set Bad Read Message**バーコードをスキャンします。
3. Scan 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「4」、「6」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

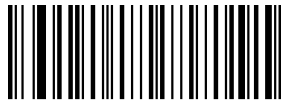
**** Enter Setup**

初期設定

工場出荷時設定

以下のバーコードをスキャンすると、スキャナーを工場出荷時の状態に戻すことができます。以下に該当する場合、全てのパラメータを工場出荷時の設定に戻す必要がある可能性があります。

1. スキャナーが正しく設定されていないため、バーコードの読み取りに失敗する場合
2. 以前の設定を忘れてしまい、それによる悪影響を防止したい場合



@FACDEF

****Restore All Factory Defaults**
(全て工場出荷時設定に戻す)

カスタムデフォルト

Restore All Custom Defaults (全てカスタムデフォルトに戻す) バーコードをスキャンすると、すべてのパラメータをカスタムデフォルトにリセットできます。**Save as Custom Defaults** (カスタムデフォルトとして保存) バーコードをスキャンすると、現在の設定をカスタムデフォルトとして設定できます。

カスタムデフォルトは不揮発性メモリに保存されます。



@CUSSAV

Save as Custom Defaults
(カスタムデフォルトとして保存)



@CUSDEF

Restore All Custom Defaults
(全てカスタムデフォルトに戻す)



スキャナーを工場出荷状態に戻しても、カスタムデフォルトはスキャナーから削除されません。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

製品情報クエリ

以下のバーコードをスキャンすると、製品情報（製品名、ファームウェアバージョン、デコーダーバージョン、ハードウェアバージョン、製品シリアル番号、OEMシリアル番号、製造日、データフォーマットバージョンなど）がホスト機器に送信されます。



@QRYSYS

Query Product Information（製品情報クエリ）

製品名クエリ



@QRYPDN

Query Product Name（製品名クエリ）

ファームウェアバージョンクエリ



@QRYFWV

Query Firmware Version（ファームウェアバージョン）

デコーダーバージョンクエリ



@QRYDCV

Query Decoder Version（デコーダーバージョンクエリ）



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

ハードウェアバージョンクエリ



@QRYHWW

Query Hardware Version (ハードウェアバージョンクエリ)

製品シリアル番号クエリ



@QRYPSN

Query Product Serial Number (製品シリアル番号クエリ)

OEMシリアル番号クエリ



@QRYESN

Query OEM Serial Number (OEMシリアル番号クエリ)

製造日クエリ



@QRYDAT

Query Manufacturing Date (製造日クエリ)

データフォーマッタバージョンクエリ



@QRYDFM

Query Data Formatter Version (データフォーマッタバージョンクエリ)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

第4章 USBインターフェース

概要

USB接続用のオプションは3種類あります。

- ◇ **USB HID Keyboard (USB HIDキーボード)** : スキャナーからの送信は、USBキーボード入力としてシミュレートされ、コマンド設定やドライバーは必要ありません。バーコードデータは仮想キーボードで直接入力でき、ホスト機器によるデータ受信にも便利です。
- ◇ **USB CDC**: USB-IFが定める標準的なUSB CDCクラスの仕様に準拠しており、シリアルポートと同じようにホスト機器がデータを受信することができます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。
- ◇ **HID POS (POS HIDバーコードスキャナー)**: HIDインターフェーススペースのため、カスタムドライバーは必要ありません。バーチャルキーボードインターフェースよりも伝送速度に優れています。

USB HIDキーボード

スキャナーがホスト機器のUSBポートに接続されている場合、以下のバーコードをスキャンしてUSB HIDキーボード機能を有効化することができます。スキャナーからの送信はUSBキーボード入力としてシミュレートされます。ホストは仮想キーボードでのキーストロークを受け付けます。プラグ&プレイのためドライバーは必要ではありません。



@INTERF3
USB HID Keyboard
(USB HID キーボード)



ホスト機器がキーボード入力を許可している場合、HIDキーボード入力の際、他のソフトウェアは必要ありません。



** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

USB国別キーボードタイプ

キーボード配置は国によって異なります。初期設定ではアメリカのキーボードに設定されています。



@KBWCTY0

U.S. (アメリカ 英語)



@KBWCTY1

Belgium (ベルギー)



@KBWCTY2

Brazil (ブラジル)



@KBWCTY3

Canada(カナダ フランス語)



@KBWCTY4

Czechoslovakia (チェコ)



@KBWCTY5

Denmark (デンマーク)



@KBWCTY6

**Finland (フィンランド
スウェーデン語)**



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup



@KBWCTY8

Germany/ Austria
(ドイツ・オーストリア)



@KBWCTY7

France (フランス)



@KBWCTY9

Greece (ギリシャ)



@KBWCTY10

Hungary (ハンガリー)



@KBWCTY11

Israel (イスラエル ヘブライ語)



@KBWCTY12

Italy (イタリア)



@KBWCTY13

Latin America/ South America
(ラテンアメリカ/南米)



@KBWCTY14

Netherlands (オランダ)



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup



@KBWCTY16
Poland (ポーランド)



@KBWCTY18
Romania (ルーマニア)



@KBWCTY21
Slovakia (スロバキア)



@KBWCTY23
Sweden (スウェーデン)



@KBWCTY15
Norway (ノルウェー)



@KBWCTY17
Portugal (ポルトガル)



@KBWCTY19
Russia (ロシア)



@KBWCTY22
Spain (スペイン)



@SETUPE0
**** Exit Setup**



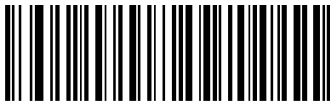
@SETUPE1

Enter Setup



@KBWCTY24

Switzerland (スイス ドイツ語)



@KBWCTY25

Turkey_F (トルコ Fタイプ)



@KBWCTY26

Turkey_Q (トルコ Qタイプ)



@KBWCTY27

UK (イギリス)



@KBWCTY28

**** Japan (日本)**



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

不明な文字の警告ブザー

Due to the differences in keyboard layouts, some characters contained in barcode data may be unavailable on the selected keyboard. As a result, the scanner fails to transmit the unknown characters. キーボードのレイアウトの違いにより、バーコードデータに含まれる一部の文字が、選択したキーボードで使用できない場合があります。その結果、スキャナーは不明な文字を送信できません。

以下のバーコードを読み取ると、不明な文字を検出したときのブザーを有効化または無効化することができます。



@KBWBUC0

**** Do Not Beep on Unknown Character**

(不明な文字を警告しない)



@KBWBUC1

Beep on Unknown Character

(不明な文字を警告する)

E
xample

フランスのキーボード（国コード：7）が選択され、バーコードデータ「ADF」が処理されているとすると、キーボードは「Ð」（0xD0）の文字を見つけることができず、スキャナーはその文字を無視して次の文字を処理します。

Do Not Beep on Unknown Character（不明な文字を警告しない）：スキャナーはブザーを鳴らさず、ホスト機器は「AF」を受信します。

Beep on Unknown Character（不明な文字を警告する）：スキャナーがブザーを鳴らし、ホスト機器は「AF」を受信します。



Emulate ALT+Keypad ON（Emulate ALT+キーパッドをオン）を選択している場合、**Beep on Unknown Character** は機能しません。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

Emulate ALT+キーパッド

Emulate ALT+キーパッドがオンの場合、全ての文字はテンキーから送信され、USBの国別キーボードを見落とします。このモードは**Code Page Option**（コードページオプション）と**Unicode Output**（Unicode出力）の設定が必要です。コードページは言語の範囲を決定します。Unicode出力はホスト機器へのASCII入力を決定します。



@KBWALT0

**** Emulate ALT+Keypad OFF**

(Emulate ALT+キーパッドをオフ)



@KBWALT1

Emulate ALT+Keypad ON

(Emulate ALT+キーパッドをオン)



ASCII文字（0x00~0x1F）はファンクションキーマッピングの設定方法に従って入力されます。



文字の送信にはキーボードエミュレーションが必要となるため、この方法は効率が悪い可能性があります。



ALT+Keypad が ON、Unicode Encoding が Off、Code Page 1252（West European Latin）が選択されている場合、バーコードデータ「ADF」（65/208/70）は以下のように送信されます。

“A” -- “ALT Make” + “065” + “ALT Break”

“D” -- “ALT Make” + “208” + “ALT Break”

“F” -- “ALT Make” + “070” + “ALT Break”



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

コードページ

コードページとは、文字コードと文字の対応関係を定義したものです。受信したデータが適切な文字で表示されない場合、スキャンしたバーコードはホストプログラムが想定しているコードページとは異なるコードページで作成されていることが考えられます。このような場合は、以下の適切なバーコードをスキャンして、バーコードが作成されたコードページを選択してください。PDF417、QRコード、Aztec コード、データマトリックスの場合は、コードページの設定のほかに、第6章の「文字エンコード」セクションで文字エンコードを設定する必要があります。この機能は、**Emulate ALT+Keypad** がオンになっている場合のみ有効です。



@KBWCPG0
** Code Page 1252 (西ヨーロッパ言語)



@KBWCPG1
Code Page 1251 (キリル語)



@KBWCPG2
Code Page 1250(中央・東ヨーロッパ言語)



@KBWCPG3
Code Page 1253 (ギリシャ語)



@KBWCPG4
Code Page 1254 (トルコ語)



@KBWCPG5
Code Page 1255 (ヘブライ語)



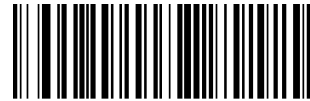
@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup



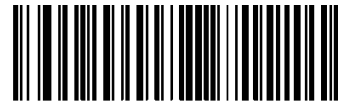
@KBWCPG6
Code Page 1256 (アラビア語)



@KBWCPG8
Code Page 1258 (ベトナム語)



@KBWCPG11
Code Page 874 (タイ語)



@KBWCPG10
Code Page 950 (繁体字中国語、Big5)



@KBWCPG12
Code Page 932 (日本語、Shift-JIS)



@KBWCPG7
Code Page 1257 (バルト語)



@KBWCPG9
Code Page 936
(簡体字中国語、GB2312、GBK)



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

Unicodeエンコード

ホストプログラムによっては、受信したバーコードデータの処理のため、異なる文字エンコードを使用する場合があります。例えば、Microsoft Office WordはUnicodeエンコードを使用しているため、**Unicode Encoding**をオンにする必要がありますが、Microsoft Office ExcelやNotepadはCode Pageエンコードを使用しているため、**Unicode Encoding**をオフにする必要があります。この機能は、**Emulate ALT+Keypad**がオンになっている場合のみ有効です。初期設定はOffです。



@KBWCPU0
** Off



@KBWCPU1
On

先行ゼロ付きキーボードエミュレーション

この機能をオンにすると、テンキーから送られてくる文字列を、先行ゼロ付きISO文字として送信することができます。例えば、ASCII Aは「ALT MAKE」 0065 「ALT BREAK」 として送信されます。この機能は、**Emulate ALT+Keypad**が有効な場合のみ使用できます。



@KBWALZ1
** On



@KBWALZ0
Off



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

先行ゼロ付きキーボードエミュレーション

Ctrl+ASCII Modeを選択すると、制御文字（0x00～0x1F）がASCIIシーケンスとして送信されます。初期設定では**Off**です。



@KBWFKM0
** Disable（無効化）



@KBWFKM1
Ctrl+ASCII Mode（Ctrl+ASCII モード）



@KBWFKM2
Alt+Keypad Mode（Alt+キーパッド モード）

E
xample

Ctrl +ASCII Modeが選択され、USB HID キーボードの他のパラメータが工場出荷時の設定になっている場合、バーコードデータ「A<HT>(例：水平タブ)F」(0x41/0x09/0x46)が以下のように送信されます

“A” - Keystroke “A”.

<HT> - “Ctrl Make” + Keystroke “I” + “Ctrl

Break” “F” - Keystroke “F”

一部のテキストエディターでは、「Ctrl I」はイタリック変換を意味します。そのため、出力は「AF」になることがあります。

Alt+Keypad Modeが選択され、USB HID キーボードの他のパラメータが工場出荷時の設定である場合、上記のデータは以下のように送信されます。

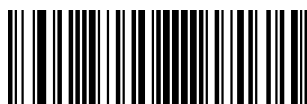
“A” - Keystroke “A”.

<HT> - “Alt Make” + Keystrokes “009” + “Alt

Break” “F” - Keystroke “F”



@SETUPE0
** Exit Setup

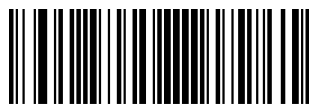


@SETUPE1

Enter Setup

ASCII ファンクションキーマッピング表

ASCII 制御文字略号	ASCII コード (HEX値)	ファンクションキーマッピング無効化	Ctrl+ASCII
NUL	00	Null	Ctrl+@
SOH	01	Keypad Enter	Ctrl+A
STX	02	Caps Lock	Ctrl+B
ETX	03	ALT	Ctrl+C
EOT	04	Null	Ctrl+D
ENQ	05	CTRL	Ctrl+E
ACK	06	Null	Ctrl+F
BEL	07	Enter	Ctrl+G
BS	08	左矢印	Ctrl+H
HT	09	水平タブ	Ctrl+I
LF	0A	下矢印	Ctrl+J
VT	0B	垂直タブ	Ctrl+K
FF	0C	Delete	Ctrl+L
CR	0D	Enter	Ctrl+M
SO	0E	Insert	Ctrl+N
SI	0F	Esc	Ctrl+O
DLE	10	F11	Ctrl+P
DC1	11	Home	Ctrl+Q
DC2	12	PrintScreen	Ctrl+R
DC3	13	Backspace	Ctrl+S
DC4	14	tab+shift	Ctrl+T
NAK	15	F12	Ctrl+U
SYN	16	F1	Ctrl+V
ETB	17	F2	Ctrl+W
CAN	18	F3	Ctrl+X
EM	19	F4	Ctrl+Y
SUB	1A	F5	Ctrl+Z
ESC	1B	F6	Ctrl+[
FS	1C	F7	Ctrl+\
GS	1D	F8	Ctrl+]
RS	1E	F9	Ctrl+6
US	1F	F10	Ctrl+-



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

ASCII ファンクションキーマッピング表 (続き)

上の表の最後の5文字（0x1B～0x1F）は、USキーボード配列にのみ適用されます。次の表は、他の国でこれらの5文字に相当するものを示しています。

国名	Ctrl+ASCII					
アメリカ	Ctrl+[	Ctrl+\	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	
ベルギー	Ctrl+[	Ctrl+<	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	
スウェーデン	Ctrl+8	Ctrl+<	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-	
フランス	Ctrl+^	Ctrl+8	Ctrl+\$	Ctrl+6	Ctrl+=	
ドイツ		Ctrl+Ã	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-	
イタリア		Ctrl+\	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-	
スイス		Ctrl+<	Ctrl+..	Ctrl+6	Ctrl+-	
イギリス	Ctrl+[	Ctrl+ ¢	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	
デンマーク	Ctrl+8	Ctrl+\	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-	
ノルウェー	Ctrl+8	Ctrl+\	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-	
スペイン	Ctrl+[	Ctrl+\	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

キーストローク間の遅延

このパラメータは、エミュレートされたキーストローク間の遅延を指定します。ホスト機器がデータ送信を遅くする必要がある場合、以下のバーコードを送信すると遅延を設定することができます。初期設定は**No Delay**（遅延しない）です。



@KBWDLY0

**** No Delay**（遅延しない）



@KBWDLY40

Long Delay（遅延長め：40ms）



@KBWDLY20

Short Delay（遅延短め：20ms）



@KBWDLY

Customer（0-100ms）

Caps Lock

Caps Lock ON（Caps Lockをオン） オプションでバーコードデータに含まれている大文字と小文字を変換できます。変換はホスト機器のキーボードのCaps LockキーボードのCaps Lockキーの状態に関係なく発生します。



@KBWCAPO

**** Caps Lock OFF (Non-Japanese keyboard)**
(Caps Lockをオフ、日本語以外のキーボード)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup



@KBWCAP1

Caps Lock ON (Non-Japanese keyboard)
(Caps Lockをオン、日本語以外のキーボード)



@KBWCAP2

**** Caps Lock OFF**
(日本語キーボード)



@KBWCAP3

Caps Lock ON (日本語キーボード)



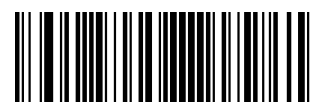
Emulate ALT+Keypad ON/ Convert All to Upper Case/ Convert All to Lower Case の各バーコードは
Caps Lock ONを優先します。



Caps Lock ON 機能を選択している場合、バーコードデータ「AbC」は「aBc」として送信されます。

大文字/小文字の切り替え

以下の適切なバーコードをスキャンすると、すべてのバーコードデータを大文字または小文字に変換できます。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup



@KBWCAS0
** No Case Conversion (変換なし)



@KBWCAS1
Convert All to Upper Case (全て大文字へ変換)



@KBWCAS2
Convert All to Lower Case (全て小文字へ変換)

E
xample

Convert All to Lower Case機能が有効な場合、バーコードデータ「AbC」は「abc」として送信されます。



Emulate ALT+Keypad ONを選択した場合、Convert All to Lower CaseおよびConvert All to Upper Caseは機能しません。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

テンキーのエミュレート



Do Not Emulate Numeric Keypad 1 (テンキーをエミュレートしない1) : 数字 (0~9) の送信は、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

Emulate Numeric Keypad 1 (テンキーをエミュレートする1) : 数字 (0~9) の送信を、テンキーのキーストロークとしてエミュレートします。模擬テンキーのNum Lockの状態は、ホスト機器のNum Lockの状態によって決まります。ホスト機器のNum Lockがオフになっている場合、模擬テンキーの出力は数字キーではなくファンクションキーになります。

Do Not Emulate Numeric Keypad 2 (テンキーをエミュレートしない2) : 「+」、「-」、「*」、「/」の送信は、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

Emulate Numeric Keypad 2 (テンキーをエミュレートする2) : 「+」、「-」、「*」、「/」の送信は、テンキー上のキーストロークとしてエミュレートされます。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup



@KBWNUM0
**** Do Not Emulate Numeric Keypad 1**
(テンキーをエミュレートしない1)



@KBWNUM1
Emulate Numeric Keypad 1
(テンキーをエミュレートする1)



@KBWNCH0
**** Do Not Emulate Numeric Keypad 2**
(テンキーをエミュレートしない2)



@KBWNCH1
Emulate Numeric Keypad 2
(テンキーをエミュレートする2)



Emulate ALT+Keypad ONはEmulate Numeric Keypadを優先します。



Emulate Numeric Keypad 1が有効である場合を想定します。

ホスト機器のNum LockがONの場合、「A4.5」は「A4.5」として送信されます。

ホスト機器のNum LockがOFFの場合、「A4.5」は以下のように送信されます。

1. 「A」はテンキーに含まれないため、そのまま送信されます。
2. 「4」がファンクションキー「左へカーソル移動」として送信されます。
3. 「・」が送信されます。
4. 「5」はどのファンクションキーにも対応していないため、送信されません。

最後にホスト機器は「A」を受け取ります。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

文字「+」、「-」、「*」、「/」をテンキーに取り入れる



@KBWNCH0
** Off



@KBWNCH1
On

ファストモード

Fast Mode On（ファストモードをオン）を選択している場合、スキャナーの文字送信速度が上がります。ホストが文字をドロップする場合、ファストモードがオフになるか、ポーリングレートが大きくなります。



@KBWFAS0
** Fast Mode Off（ファストモードをオフ）



@KBWFAS1
Fast Mode On（ファストモードをオン）



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

ポーリングレート

このパラメータはUSBキーボードのポーリングレートを指定します。レート値が小さくなるほどスキャナーからホスト機器への文字送信が速くなります。ホスト機器が文字をドロップする場合、ポーリングレートを大きな値へ変更します。



@KBWPOR0

1ms



@KBWPOR1

2ms



@KBWPOR2

3ms



@KBWPOR3

** 4ms



@KBWPOR4

5ms



@KBWPOR5

6ms



@KBWPOR6

7ms



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



@KBWPOR7

8ms



@KBWPOR8

9ms



@KBWPOR9

10ms



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

USB CDC

スキャナーがホスト機器のUSB ポートに接続されている場合、ホスト機器はUSB CDC 機能によってシリアルポートと同じ方法でデータを受信できます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。当社公式サイト (www.newlandaidc.com) からドライバーをダウンロードできます。



@INTERF8

USB CDC

HID POS (POS HIDバーコードスキャナー)

概要

新しいアプリケーションプログラムには、HID-POSインターフェースの利用をお勧めします。このインターフェースは、1つのUSBレポートで最大56文字を送信することができ、キーボードエミュレーションよりも効率的です。

機能:

1. HIDベース、カスタムドライバー不要。
2. キーボードエミュレーションインターフェースに比べ、より効率的な通信が可能。



@INTERF5

USB HID-POS

自分のプログラムでスキャナーへアクセス

CreateFile関数を使用してHIDデバイスとしてスキャナーにアクセスし、ReadFile関数を使用してスキャンされたデータをアプリケーションプログラムに配信します。WriteFile関数を使用してデータをスキャナーに送信します。

USBとHIDのインターフェースに関する詳細情報は、こちらのウェブサイト (www.USB.org) をご覧ください。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

スキャンデータの取得

バーコードを読み取ると、スキャナーは以下のように入力レポートを送信します。

	ビット							
バイト	7	6	5	4	3	2	1	0
0	レポートID = 0x02							
1	バーコード長さ							
2-57	デコードデータ (1-56)							
58-61	予備							
62	Newland Symbology Identifier または N/C: 0x00							
63	-	-	-	-	-	-	-	読み取られた データの続 き

コマンドをスキャナーへ送信

この出力レポートは、スキャナーへのコマンド送信用です。すべてのプログラミングコマンドが使用できます。

	ビット							
バイト	7	6	5	4	3	2	1	0
0	レポートID = 0x04							
1	コマンド長さ							
2-63	コマンド (1-62)							



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

VID/PID

USBでは、VID（ベンダーID）とPID（製品ID）を用いてデバイスの識別、位置特定を行います。VIDは、USBインプリメンターズ・フォーラムによって割り当てられます。NewlandのVIDは1EAB（Hex）です。当社の各製品には、さまざまなPIDが使用されています。各PIDには、ベースナンバーとインターフェースタイプ（キーボード、COMポートなど）が含まれています。

製品	インターフェース	PID (Hex)	PID (Dec)
NL4200U	USB HID Keyboard	3222	12834
	USB CDC	3206	12806
	HID POS	3210	12816



@SETUPE0

** Exit Setup



第5章 シンボロジー

概要

すべてのシンボロジー（バーコードタイプ）には、独自の属性があります。本章では、スキャナーがさまざまなシンボロジーを識別できるように設定するためのプログラミングバーコードについて説明します。スキャナーの性能向上のため、ほとんど使用しない機能を無効化することをお勧めします。

グローバル設定

全てのシンボロジーを有効化/無効化

Disable All Symbolologies（全てのシンボロジーを無効化）機能を有効すると、スキャナーはプログラミングバーコード以外のバーコードを読み取ることができなくなります。



Enable All Symbolologies
(全てのシンボロジーを有効化)



Disable All Symbolologies
(全てのシンボロジーを無効化)

1次元シンボロジーを有効化/無効化



Enable 1D Symbolologies
(1次元シンボロジーを有効化)



Disable 1D Symbolologies
(1次元シンボロジーを無効化)



2次元シンボロジーを有効化/無効化



@ALL2DC1

Enable 2D Symbologies (2次元シンボロジーを有効化)



@ALL2DC0

Disable 2D Symbologies (2次元シンボロジーを無効化)

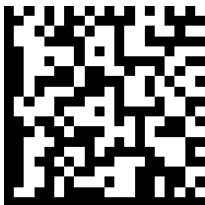
Video Reverse

The **Video Reverse** feature only applies to 2D barcodes.

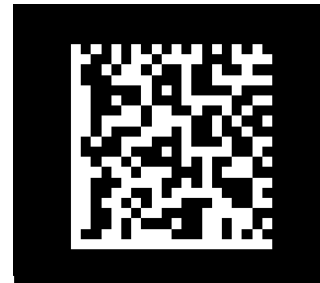
Regular barcode: Dark image on a bright background.

Inverse barcode: Bright image on a dark background.

The examples of regular barcode and inverse barcode are shown below.



Regular Barcode



Inverse Barcode

Video Reverse allows the scanner to read barcodes that are inverted.

Video Reverse ON: Read both regular barcodes and inverse barcodes.

Video Reverse OFF: Read regular barcodes only.

The scanner shows a slight decrease in scanning speed when Video Reverse is ON.



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



Video Reverse ON



Video Reverse OFF (default)



@SETUPE0

**** Exit Setup**

1次元ツインコード

1次元 ツインコードは2つのシンボロジーの1次元バーコードまたは異なるシンボロジーが垂直に並んでいます。2つのバーコードは類似した仕様であり、互いに密接している必要があります。

1次元ツインコードの読み取りは3種類のオプションがあります。

Single 1D Code Only (いずれかの1次元コードのみ) : いずれかの1次元コードのみ読み取ります。

Twin 1D Code Only (両方の1次元コードのみ) : 両方の1次元コードを読み取ります。送信順 : 下の1次元コードを先に送信後、上の1次元コードを送信します。

Both Single & Twin (いずれか一方&両方) : 両方の1次元コードを読み取ります。成功すると、両方の1次元コードを送信し、失敗した場合、いずれか一方の1次元コードのみ送信します。



@A1DDOU0

**** Single 1D Code Only (いずれかの1次元コードのみ)**



@A1DDOU2

Twin 1D Code Only (両方の1次元コードのみ)



@A1DDOU1

Both Single & Twin (いずれか一方&両方)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

Code 128

工場出荷時設定に戻す



@128DEF

Restore the Factory Defaults of Code 128

(Code 128工場出荷時設定に戻す)

Code 128を有効化/無効化



@128ENA1

**** Enable Code 128 (Code 128を有効化)**



@128ENA0

Disable Code 128 (Code 128を無効化)



スキャナーがCode 128バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Code 128**をスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**

Code 128の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCode 128バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 1)



Set the Maximum Length

(最大長さ設定初期設定: 48)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCode 128バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCode 128バーコードしかデコードしません。



スキャナーが8～12文字のCode 128バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタの送信



@128CHK2

Transmit Code 128 Check Character (Code 128のチェックキャラクタを送信)



@128CHK1

**** Do Not Transmit Code 128 Check Character**
(Code 128のチェックキャラクタを送信しない)

FNC1出力



@128FNC0

Off



@128FNC1

**** On**



@SETUPE0

**** Exit Setup**

EAN-8

工場出荷時設定に戻す



@EA8DEF

Restore the Factory Defaults of EAN-8
(EAN-8の工場出荷時設定に戻す)

EAN-8を有効化/無効化



@EA8ENA1

** Enable EAN-8 (EAN-8を有効化)



@EA8ENA0

Disable EAN-8 (EAN-8を無効化)



スキャナーがEAN-8バーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable EAN-8**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。

チェックキャラクタの送信

EAN-8は長さが8桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



@EA8CHK2

** Transmit EAN-8 Check Character
(EAN-8のチェックキャラクタを送信)



@EA8CHK1

Do Not Transmit EAN-8 Check Character
(EAN-8のチェックキャラクタを送信しない)



@SETUPE0

** Exit Setup



2桁のアドオンコード

A EAN-8バーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-8バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



**** Disable 2-Digit Add-On Code**
(2桁のアドオンコードを無効化)

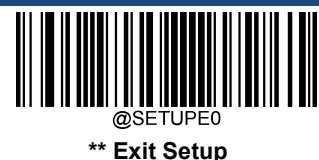


Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



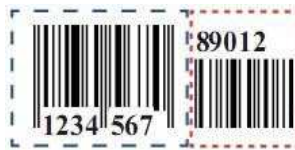
Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化) : EAN-8に2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-8 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないEAN-8バーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるEAN-8バーコードとアドオンコードがないEAN-8バーコードのどちらもデコードします。



5桁のアドオンコード

EAN-8バーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-8バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



**** Disable 5-Digit Add-On Code**
(5桁のアドオンコードを無効化)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化) : EAN-8に5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-8 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないEAN-8バーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるEAN-8バーコードとアドオンコードがないEAN-8バーコードのどちらも読み取ります。





アドオンコードのリクエスト

EAN-8 Add-On Code Required (EAN-8のアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きのEAN-8バーコードのみ読み取ります。



**** EAN-8 Add-On Code Not Required**
(EAN-8のアドオンコードをリクエストしない)



EAN-8 Add-On Code Required
(EAN-8のアドオンコードをリクエスト)

EAN-8からEAN-13へ変換

Convert EAN-8 to EAN-13 (EAN-8からEAN-13へ変換) : EAN-8のデコードデータを送信前にEAN-13形式へ変換します。変換後、データはEAN-13形式に準拠し、EAN-13のプログラミングの選択 (チェックキャラクタなど) に影響を受けます。

Do Not Convert EAN-8 to EAN-13 (EAN-8からEAN-13へ変換しない) : EAN-8のデコードデータは変換されず、EAN-8形式で送信されます。



**** Do Not Convert EAN-8 to EAN-13**
(EAN-8からEAN-13へ変換しない)



Convert EAN-8 to EAN-13
(EAN-8からEAN-13へ変換)



EAN-13

工場出荷時設定に戻す



@E13DEF

Restore the Factory Defaults of EAN-13

(EAN-13の工場出荷時設定に戻す)

EAN-13を有効化/無効化



@E13ENA1

**** Enable EAN-13 (EAN-13を有効化)**



@E13ENA0

Disable EAN-13 (EAN-13を無効化)



スキャナーがEAN-13バーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable EAN-13** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



チェックキャラクタの送信



**** Transmit EAN-13 Check Character**
(EAN-13チェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit EAN-13 Check Character
(EAN-13チェックキャラクタを送信しない)

2桁のアドオンコード

EAN-13バーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-13バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



**** Disable 2-Digit Add-On Code**
(2桁のアドオンコードを無効化)



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)





Dissable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化) : EAN-13に2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-13 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないEAN-13バーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるEAN-13バーコードとアドオンコードがないEAN-13バーコードのどちらもデコードします。

5桁のアドオンコード

EAN-13バーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-13バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



**** Disable 5-Digit Add-On Code**
(5桁のアドオンコードを無効化)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化) : EAN-13に5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-13バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないEAN-13バーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるEAN-13バーコードとアドオンコードがないEAN-13バーコードのどちらも読み取ります。



**** Exit Setup**



アドオンコードのリクエスト

EAN-13 Add-On Code Required (EAN-13のアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きのEAN-13バーコードのみ読み取ります。



**** EAN-13 Add-On Code Not Required**
(EAN-13のアドオンコードをリクエストしない)



EAN-13 Add-On Code Required
(EAN-13のアドオンコードをリクエスト)



290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「290」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）: EAN-13バーコードが全て「290」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



**** Do Not Require Add-On Code**
(アドオンコードをリクエストしない)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエスト)

378または379で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「378」または「379」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）: EAN-13バーコードが全て「378」または「379」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



**** Do Not Require Add-On Code**
(アドオンコードをリクエストしない)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエスト)



**** Exit Setup**



414または419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「414」または「419」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）: EAN-13バーコードが全て「414」または「419」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。

**** Do Not Require Add-On Code**



@E134140

(アドオンコードをリクエストしない)



@E134141

Require Add-On Code

(アドオンコードをリクエスト)



434または439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「434」または「439」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）:EAN-13バーコードが全て「434」または「439」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



**** Do Not Require Add-On Code**
(アドオンコードをリクエストしない)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエスト)

977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「977」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）:EAN-13バーコードが全て「977」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



**** Do Not Require Add-On Code**
(アドオンコードをリクエストしない)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエスト)



**** Exit Setup**



978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「978」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする） : EAN-13バーコードが全て「978」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない） : **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



**** Do Not Require Add-On Code**
(アドオンコードをリクエストしない)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエスト)



979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「979」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする） : EAN-13バーコードが全て「979」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない） : **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E139790

**** Do Not Require Add-On Code**
(アドオンコードをリクエストしない)



@E139791

Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエスト)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



UPC-E

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of UPC-E
(UPC-Eの工場出荷時設定に戻す)

UPC-Eを有効化/無効化



**** Enable UPC-E**
(UPC-Eを有効化)



スキャナーがUPC-E0/UPC-E1バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable UPC-E0/UPC-E1**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



チェックキャラクタの送信

UPC-E は長さが8桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



@UPECHK2

**** Transmit UPC-E Check Character**
(UPC-Eチェックキャラクタを送信)



@UPECHK1

Do Not Transmit UPC-E Check Character
(UPC-Eチェックキャラクタを送信しない)

2桁のアドオンコード

UPC-Eバーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-Eバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



@UPEAD20

**** Disable 2-Digit Add-On Code**
(2桁のアドオンコードを無効化)



@UPEAD21

Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



Dissable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化) : UPC-Eに2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-E バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないUPC-Eバーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるUPC-EバーコードとアドオンコードがないUPC-Eバーコードのどちらもデコードします。

5桁のアドオンコード

UPC-Eバーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所がUPC-Eバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



**** Disable 5-Digit Add-On Code**
(5桁のアドオンコードを無効化)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化) : UPC-Eに5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-Eバーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないUPC-Eバーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるUPC-EバーコードとアドオンコードがないUPC-Eバーコードのどちらも読み取ります。



アドオンコードのリクエスト

UPC-E Add-On Code Require (UPC-Eのアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きのUPC-Eバーコードのみ読み取ります。



@UPAREQ0

**** UPC-E Add-On Code Not Required**
(UPC-Eのアドオンコードをリクエストしない)



@UPAREQ1

UPC-E Add-On Code Required
(UPC-Eのアドオンコードをリクエストしない)

プリアンブルキャラクタの送信

プリアンブルキャラクタ (国コードとシステムキャラクタ) は、UPC-E バーコードの一部として送信できます。UPC-Eプリアンブルをホスト機器に送信する際、システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コード (アメリカは「0」)、プリアンブルキャラクタなしのいずれかの送信方法を選択します。



@UPEPRE1

**** System Character** (システムキャラクタ)



@UPEPRE0

No Preamble (プリアンブルキャラクタなし)



@UPEPRE2

System Character & Country Code
(システムキャラクタ&国コード)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



UPC-EからUPC-Aへ変換

Convert UPC-E to UPC-A (UPC-EからUPC-Aへ変換) :

UPC-E(ゼロサブレス)のデコードデータを送信前にUPC-A形式へ変換します。変換後、データはUPC-A形式に準拠し、UPC-Aのプログラミングの選択（プリアンブル、チェックキャラクタなど）に影響を受けます。

Do Not Convert UPC-E to UPC-A (UPC-EからUPC-Aへ変換しない) : UPC-Eのデコードデータは変換されず、UPC-E形式で送信されます。



**** Do Not Convert UPC-E to UPC-A**
(UPC-EからUPC-Aへ変換しない)



Convert UPC-E to UPC-A
(UPC-EからUPC-Aへ変換)



UPC-A

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of UPC-A
(UPC-Aの工場出荷時設定に戻す)

UPC-Aを有効化/無効化



** Enable UPC-A (UPC-Aを有効化)



Disable UPC-A (UPC-Aを無効化)



スキャナーがUPC-Aバーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、UPC-Aバーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。

チェックキャラクタの送信

UPC-A は長さが13桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



** Transmit UPC-A Check Character
(UPC-Aチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit UPC-A Check Character
(UPC-Aチェックキャラクタを送信しない)



** Exit Setup



2桁のアドオンコード

UPC-Aバーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-Aバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



**** Disable 2-Digit Add-On Code**
(2桁のアドオンコードを無効化)



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化) : UPC-Aに2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-A バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないUPC-Aバーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるUPC-AバーコードとアドオンコードがないUPC-Aバーコードのどちらもデコードします。



5桁のアドオンコード

UPC-Aバーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-Aバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



**** Disable 5-Digit Add-On Code**
(5桁のアドオンコードを無効化)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化) : UPC-Aに5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-A バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないUPC-Aバーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるUPC-AバーコードとアドオンコードがないEAN-13バーコードのどちらも読み取ります。



**** Exit Setup**



アドオンコードのリクエスト

UPC-A Add-On Code Required (UPC-Aのアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きの UPC-Aバーコードのみ読み取ります。



**** UPC-A Add-On Code Not Required**
(UPC-Aのアドオンコードをリクエストしない)



UPC-A Add-On Code Required
(UPC-Aのアドオンコードをリクエスト)

プリアンブルキャラクタの送信

プリアンブルキャラクタ (国コードとシステムキャラクタ) は、UPC-A バーコードの一部として送信できます。UPC-Aプリアンブルをホスト機器に送信する際、システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コード (アメリカは「0」)、プリアンブルキャラクタなしのいずれかの送信方法を選択します。



No Preamble (プリアンブルキャラクタなし)



System Character (システムキャラクタ)



****System Character & Country Code** (システムキャラクタ&国コード)



インタリーブド 2 of 5

工場出荷時設定に戻す



@I25DEF

Restore the Factory Defaults of Interleaved 2 of 5
(インタリーブド 2 of 5の工場出荷時設定に戻す)

インタリーブド 2 of 5を有効化/無効化



@I25ENA1

**** Enable Interleaved 2 of 5**
(インタリーブド 2 of 5を有効化)



@I25ENA0

Disable Interleaved 2 of 5
(インタリーブド 2 of 5を無効化)



スキャナーがインタリーブド 2 of 5を 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、
Enable Interleaved 2 of 5バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



インタリーブド 2 of 5 の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のインタリーブド 2 of 5 のみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 6)



Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 80)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを
持つインタリーブド 2 of 5 しかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのインタ
リーブド 2 of 5 しかデコードしません。



スキャナーが 8～12 文字のインタリーブド 2 of 5 をデコードするように設定する方法

Enter Setup バーコードをスキャンします。

2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



チェックキャラクタ認証

チェックキャラクタはインタリーブド2 of 5のオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable（無効化）：スキャナーはインタリーブド2 of 5をそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）：スキャナーは、インタリーブド2 of 5の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification（検証後、チェックキャラクタを送信）：スキャナーは、インタリーブド2 of 5の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。

インタリーブド2 of 5は文字数が必ず偶数になるため、チェックキャラクタを追加する際、最初の数字の前に0を追加する必要があります。チェックキャラクタはインタリーブド2 of 5作成時に自動的に生成されます。

****Disable（無効化）**



Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)



Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)



Not Transmit Check Character After Verification（認証後チェックキャラクタを送信しない） オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いインタリーブド2 of 5はデコードされません（例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むインタリーブド2 of 5は読み取られません）。



**** Exit Setup**



Febraban

Febrabanを有効化/無効化



**** Enable Febraban, Do Not Expand** (Febrabanを有効化、拡張しない)



Enable Febraban, Expand
(Febrabanを有効化、拡張する)

キャラクタ間送信ディレイ

Transmit Delay per Character (キャラクタ間送信ディレイ) はFebraban (拡張および非拡張) にのみ適用されます。この機能はUSB HIDキーボードのみ有効です。



**** Disable Transmit Delay per Character** (キャラクタ間送信ディレイを無効化)



Enable Transmit Delay per Character
(キャラクタ間送信ディレイを有効化)



実際の必要性に応じて以下のオプションから適切なディレイ値を選択できます。



@FEBSDT0

0ms



@FEBSDT5

5ms



@FEBSDT10

10ms



@FEBSDT15

15ms



@FEBSDT20

20ms



@FEBSDT25

25ms



@FEBSDT30

30ms



@FEBSDT35

35ms



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup



@FEBSDT40
40ms



@FEBSDT45
45ms



@FEBSDT50
50ms



@FEBSDT55
55ms



@FEBSDT60
60ms



@FEBSDT65
65ms



@FEBSDT70
**** 70ms**



@FEBSDT75
75ms



@SETUPE0
**** Exit Setup**

ITF-14

ITF-14 は長さが14文字で末尾の文字がチェックキャラクタになっている特殊なインタリーブド2 of 5 です。

ITF-14 priority principle(ITF-14優先原則): 長さが、14文字で末尾の文字がチェックキャラクタのインタリーブド2 of 5の場合、ITF-14 設定がインタリーブド2 of 5バーコードの設定より優先されます。

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of ITF-14
(ITF-14の工場出荷時設定に戻す)

ITF-14を有効化/無効化



**** Disable ITF-14**
(ITF-14を無効化)



Enable ITF-14 But Do Not Transmit Check Character
(ITF-14を有効化、チェックキャラクタを送信)



Enable ITF-14 and Transmit Check Character
(ITF-14を有効化、チェックキャラクタを送信しない)

ITF-14優先原則の例: ITF-14が有効で、インタリーブド2 of 5が無効の場合、スキャナーは長さが14文



**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

字で末尾がチェックキャラクタのインタリーブド2 of 5 バーコードのみデコードします。

ITF-6

ITF-6 は長さが6文字で末尾の文字がチェックキャラクタになっている特殊なインタリーブド2 of 5 です。

ITF-6 priority principle(ITF-6優先原則): 長さが、6文字で末尾の文字がチェックキャラクタのインタリーブド2 of 5の場合、ITF-6 設定がインタリーブド2 of 5バーコードの設定より優先されます。

工場出荷時設定に戻す



@IT6DEF

Restore the Factory Defaults of ITF-6 (
ITF-6の工場出荷時設定に戻す)

ITF-6を有効化/無効化



@IT6ENA0

**** Disable ITF-6**

(ITF-6を無効化)



@IT6ENA1

Enable ITF-6 But Do Not Transmit Check Character
(ITF-6を有効化、チェックキャラクタを送信しない)



@IT6ENA2

Enable ITF-6 and Transmit Check Character
(ITF-6を有効化、チェックキャラクタを送信)

ITF-6優先原則の例: ITF-6が有効で、インタリーブド2 of 5が無効の場合、スキャナーは長さが6文字で末尾がチェックキャラクタのインタリーブド2 of 5 バーコードのみデコードします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**

Matrix 2 of 5

工場出荷時設定に戻す



@M25DEF

Restore the Factory Defaults of Matrix 2 of 5
(Matrix 2 of 5の工場出荷時設定に戻す)

Matrix 2 of 5を有効化/無効化



@M25ENA1

Enable Matrix 2 of 5
(Matrix 2 of 5を有効化)



@M25ENA0

**** Disable Matrix 2 of 5**
(Matrix 2 of 5を無効化)



スキャナーがMatrix 2 of 5バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、
Enable Matrix 2 of 5バーコードをスキャンして問題を解決する必要がありますe.



@SETUPE0

**** Exit Setup**



Matrix 2 of 5の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のMatrix 2 of 5バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 4)



Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 80)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つMatrix 2 of 5バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのMatrix 2 of 5バーコードしかデコードしません。



スキャナーが8～12文字のMatrix 2 of 5バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



チェックキャラクタ認証

チェックキャラクタはMatrix 2 of 5のオプションであり、最後の2文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

Disable（無効化）：スキャナーはMatrix 2 of 5をそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）：スキャナーは、インタリーブド 2 of 5の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification（検証後、チェックキャラクタを送信）：スキャナーは、Matrix 2 of 5の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。

Matrix 2 of 5は文字数が必ず偶数になるため、チェックキャラクタを追加する際、最初の数字の前に0を追加する必要があります。チェックキャラクタはMatrix 2 of 5作成時に自動的に生成されます。



@M25CHK0
Disable（無効化）



@M25CHK1
**** Do Not Transmit Check Character After Verification**
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)



@M25CHK2
Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後チェックキャラクタを送信しない） オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いMatrix 2 of 5バーコードはデコードされません（例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むMatrix 2 of 5バーコードは読み取られません）



@SETUPE0
**** Exit Setup**



Code 39

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Code 39
(Code 39の工場出荷時設定に戻す)

Code 39を有効化/無効化



** Enable Code 39 (Code 39を有効化)



Disable Code 39 (Code 39を無効化)



スキャナーがCode 39バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Code 39**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



Code 39の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCode 39バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 1)



Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 48)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCode 39バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCode 39バーコードしかデコードしません。



スキャナーが8～12文字のCode 39バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



**** Exit Setup**



チェックキャラクタ認証

チェックキャラクタはCode 39バーコードのオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable（無効化）：スキャナーはCode 39バーコードをそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）：スキャナーは、Code 39バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification（検証後、チェックキャラクタを送信）：スキャナーは、Code 39バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



**** Disable（無効化）**



**Do Not Transmit Check Character After Verification
（検証後チェックキャラクタを送信しない）**



Transmit Check Character After Verification（検証後、チェックキャラクタを送信）



Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後チェックキャラクタを送信しない） オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いCode 39バーコードはデコードされません（例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むCode 39バーコードは読み取られません）。



スタートキャラクタ/ストップキャラクタの送信

Code 39 は文字の先頭とストップキャラクタにアスタリスク(*) を使用します。以下の適切なバーコードをスキャンしてスタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信するか選択することができます。



@C39TSC0

**** Do Not Transmit Start/Stop Character**

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない)



@C39TSC1

Transmit Start/Stop Character

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信)

Code 39 フルアスキーを有効化/無効化

スキャナーは以下の適切なバーコードをスキャンして全てのアスキーキャラクタを特定するよう設定できます。



@C39ASC0

**** Disable Code 39 Full ASCII**

(Code 39フルアスキーを無効化)



@C39ASC1

Enable Code 39 Full ASCII

(Code 39フルアスキーを有効化)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



Code 32 (イタリア製薬業界用コード) を有効化/無効化

Code 32は、イタリアの製薬業界で使用されているCode 39の一種です。以下の適切なバーコードをスキャンして、Code 32を有効化または無効化します。このパラメータが機能するためには、Code 39 を有効し、Code 39 チェックキャラクター認証を無効化する必要があります。



**** Disable Code 32 (Code 32を無効化)**



Enable Code 32 (Code 32を有効化)

Code 32 プリフィックス

以下の適切なバーコードをスキャンして、すべての Code 32 バーコードにプリフィックス「A」の追加を有効化または無効化します。このパラメータが機能するには、Code 32 を有効化する必要があります。



**** Disable Code 32 Prefix**
(Code 32 プリフィックスを無効化)



Enable Code 32 Prefix
(Code 32 プリフィックスを有効化)



Code 32スタートキャラクタ/ストップキャラクタの送信

Code 32が機能するためには、このパラメータが有効化する必要があります。



@C39T320

**** Do Not Transmit Code 32 Start/Stop Character**

(Code 32スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない)



@C39T321

Transmit Code 32 Start/Stop Character

(Code 32スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信)

Code 32チェックキャラクタの送信

Code 32が機能するためにはこのパラメータを有効化する必要があります。



@C39C320

**** Do Not Transmit Code 32 Check Character**

(Code 32チェックキャラクタを送信しない)



@C39C321

Transmit Code 32 Check Character

(Code 32チェックキャラクタを送信)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



Codabar

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Codabar
(Codabarの工場出荷時設定に戻す)

Codabarを有効化/無効化



**** Enable Codabar**
(Codabarを有効化)



Disable Codabar
(Codabarを無効化)



スキャナーがCodabarバーコードを 特定できない場合、Enter Setup バーコードをスキャン後、Enable Codabarバーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



Codabarの長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCodabarバーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 2)



Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 60)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCodabarバーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCodabarバーコードしかデコードしません。



スキャナーが8～12文字のCodabarバーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



** Exit Setup



チェックキャラクタ認証

チェックキャラクタはCodabarバーコードのオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable（無効化）：スキャナーはCodabarバーコードをそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）：スキャナーは、Codabarバーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification（検証後、チェックキャラクタを送信）：スキャナーは、Codabarバーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後チェックキャラクタを送信しない)



Transmit Check Character After Verification
(検証後、チェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後チェックキャラクタを送信しない） オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いCodabarバーコードはデコードされません（例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むCodabarバーコードは読み取られません）。



スタートキャラクタ/ストップキャラクタ

以下の適切なバーコードをスキャンしてスタートキャラクタ/ストップキャラクタを設定後、送信するか選択することができます。



@CBATSC0

**** Do Not Transmit Start/Stop Character**

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない)



@CBATSC1

Transmit Start/Stop Character

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信)



@CBASCF0

**** ABCD/ABCD as the Start/Stop Character**

(ABCD/ABCDをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定)



@CBASCF1

ABCD/TN*E as the Start/Stop Character

(ABCD/TN*Eをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定)



@CBASCF2

abcd/abcd as the Start/Stop Character

(abcd/abcdをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定)



@CBASCF3

abcd/tn*e as the Start/Stop Character

(abcd/ tn*eをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



Code 93

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Code 93
(Code 93の工場出荷時設定に戻す)

Code 93を有効化/無効化



**** Enable Code 93**
(Code 93を有効化)



Disable Code 93
(Code 93を無効化)



スキャナーがCode 93バーコードを 特定できない場合、Enter Setup バーコードをスキャン後、

Enable Code 93バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



Code 93の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCode 93バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 1)



Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 48)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCode 93バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCode 93バーコードしかデコードしません。



スキャナーが8～12文字のCode 93バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



**** Exit Setup**



チェックキャラクタ認証

チェックキャラクタはCode 93バーコードのオプションであり、最後の2文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable（無効化）：スキャナーはCode 93バーコードをそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）：スキャナーは、Code 93バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification（検証後、チェックキャラクタを送信）：スキャナーは、Code 93バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



**** Do Not Transmit Check Character After Verification
（認証後チェックキャラクタを送信しない）**



**Transmit Check Character After Verification
（検証後、チェックキャラクタを送信）**



Do Not Transmit Check Character After Verification（認証後チェックキャラクタを送信しない） オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いCode 93バーコードはデコードされません（例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むCode 93バーコードは読み取られません）。



GS1-128 (UCC/EAN-128)

工場出荷時設定に戻す



@GS1DEF

Restore the Factory Defaults of GS1-128

(GS1-128の工場出荷時設定に戻す)

GS1-128を有効化/無効化



@GS1ENA1

**** Enable GS1-128 (GS1-128を有効化)**



@GS1ENA0

Disable GS1-128 (GS1-128を無効化)



スキャナーがGS1-128バーコードを 特定できない場合、Enter Setup バーコードをスキャン後、

Enable GS1-128バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

GS1-128の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のGS1-128バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@GS1MIN

Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 1)



@GS1MAX

Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 48)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つGS1-128バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのGS1-128バーコードしかデコードしません。



スキャナーが8～12文字のGS1-128バーコードをデコードするように設定する方法

1. Enter Setupバーコードをスキャンします。
2. Set the Minimum Length バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションのSave バーコードをスキャンします。
5. Set the Maximum Length バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションのSave バーコードをスキャンします。
8. Exit Setup バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** Exit Setup

チェックキャラクタの送信



@GS1CHK2

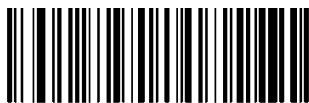
**** Transmit GS1-128 Check Character**
(GS1-128のチェックキャラクタを送信)



@GS1CHK1

Do not Transmit GS1-128 Check Character
(GS1-128のチェックキャラクタを送信しない)

FNC1 出力



@GS1FNC0

Off



@GS1FNC1

**** On**



@SETUPE0

**** Exit Setup**



GS1 Databar (RSS)

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of GS1 Databar
(GS1 Databarの工場出荷時設定に戻す)

GS1 Databarを有効化/無効化



**** Enable GS1 Databar (GS1 Databarを有効化)**



Disable GS1 Databar (GS1 Databarを無効化)



スキャナーがGS1 Databarバーコードを 特定できない場合、Enter Setup バーコードをスキャン後、
Enable GS1 Databarバーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。

アプリケーション識別子「01」を送信



**** Transmit Application Identifier "01"**

(アプリケーション識別子「01」を送信)



Do Not Transmit Application Identifier "01"
(アプリケーション識別子「01」を送信しない)



Code 11

工場出荷時設定に戻す



@C11DEF

Restore the Factory Defaults of Code 11
(Code 11の工場出荷時設定に戻す)

Code 11を有効化/無効化



@C11ENA1

**** Enable Code 11 (Code 11を有効化)**



@C11ENA0

Disable Code 11 (Code 11を無効化)



スキャナーがCode 11バーコードを 特定できない場合、Enter Setup バーコードをスキャン後、

Enable Code 11バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



Code 11の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCode 11バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 4)



Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 48)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCode 11バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCode 11バーコードしかデコードしません。



スキャナーが8～12文字のCode 11バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



チェックキャラクタ認証

チェックキャラクタはCode 11のオプションであり、最後の2文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

Disable オプションが有効の場合、スキャナーはCode 11バーコードをそのまま送信します。



@C11CHK0

Disable (無効化)



@C11CHK1

**** One Check Character, MOD11**

(1種のチェックキャラクタ、MOD11)



@C11CHK2

Two Check Characters, MOD11/MOD11

(2種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD11)



@C11CHK3

Two Check Characters, MOD11/MOD9

**(2種のチェックキャラクタ、
MOD11/MOD9)**



@C11CHK4

One Check Character, MOD11 (Len<=10) Two Check Characters, MOD11/MOD11(Len>10)

(1種のチェックキャラクタ、MOD11 (Len<=10) 2種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD11(Len>10))



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup



@C11CHK5

One Check Character, MOD11 (Len<=10) Two Check Characters, MOD11/MOD9

(Len>10)

(1種のチェックキャラクタ、MOD11 (Len<=10) 2種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD9(Len>10))

チェックキャラクタの送信



@C11TCK0

**** Do Not Transmit Code 11 Check Character**

(Code 11 チェックキャラクタを送信しない)



@C11TCK1

Transmit Code 11 Check Character

(Code 11 チェックキャラクタを送信)



チェックキャラクタのアルゴリズムと**Do Not Transmit Check Character** (チェックキャラクタを送信しない) オプションを選択すると、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短い Code 11 バーコードはデコードされません (例えば、One Check Character、MOD10、Do Not Transmit Check Character のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含む Code 11 は読み取られません)



@SETUPE0

**** Exit Setup**

ISBN

工場出荷時設定に戻す



@ISBDEF

Restore the Factory Defaults of ISBN
(ISBNの工場出荷時設定に戻す)

ISBNを有効化/無効化



@ISBENA1

Enable ISBN (ISBNを有効化)



@ISBENA0

**** Disable ISBN (ISBNを無効化)**



スキャナーがISBNバーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、

Enable ISBNバーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。

ISBNフォーマットの設定



@ISBT101

ISBN-10



@ISBT100

**** ISBN-13**



@SETUPE0

**** Exit Setup**



2桁のアドオンコード

ISBNバーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所がISBNバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



**** Disable 2-Digit Add-On Code**
(2桁のアドオンコードを無効化)



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化) : ISBNに2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはISBNバーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないISBNバーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるISBNバーコードとアドオンコードがないISBNバーコードのどちらもデコードします。



5桁のアドオンコード

ISBNバーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所がISBNバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



**** Disable 5-Digit Add-On Code**

(5桁のアドオンコードを無効化)



Enable 5-Digit Add-On Code

(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化) : ISBNに5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはISBNバーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないISBNバーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるISBNバーコードとアドオンコードがないISBNバーコードのどちらも読み取ります。



**** Exit Setup**

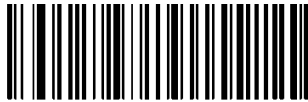


@SETUPE1

Enter Setup

アドオンコードをリクエスト

ISBN Add-On Code Required (ISBNのアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャナーは アドオンコード付きのISBNバーコードのみ読み取ります。



@ISBREQ0

**** ISBN Add-On Code Not Required**

(ISBNのアドオンコードをリクエストしない)



@ISBREQ1

ISBN Add-On Code Required

(ISBNのアドオンコードをリクエスト)



@SETUPE0

**** Exit Setup**

ISSN

工場出荷時設定に戻す



@ISSDEF

Restore the Factory Defaults of ISSN
(ISSNの工場出荷時設定に戻す)

ISSNを有効化/無効化



@ISSENA1

Enable ISSN (ISSNを有効化)



@ISSENA0

**** Disable ISSN** (ISSNを無効化)



スキャナーがISSNバーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、

Enable ISSNバーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



2桁のアドオンコード

ISSNバーコードは2桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所がISSNバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が2桁のアドオンコードです。



**** Disable 2-Digit Add-On Code**
(2桁のアドオンコードを無効化)



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



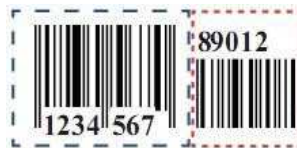
Disable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを無効化) : ISSNに2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはISSNバーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないISSNバーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるISSNバーコードとアドオンコードがないISSNバーコードのどちらもデコードします。



5桁のアドオンコード

ISSNバーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所がISSNバーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



**** Disable 5-Digit Add-On Code**

(5桁のアドオンコードを無効化)



Enable 5-Digit Add-On Code

(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化) : ISSNに5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはISSNバーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないISSNバーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるISSNバーコードとアドオンコードがないISSNバーコードのどちらも読み取ります。



**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

アドオンコードのリクエスト

ISSN Add-On Code Required (ISSNのアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャナーは アドオンコード付きのISSNバーコードのみ読み取ります。



@ISSREQ0

**** ISSN Add-On Code Not Required**

(ISSNのアドオンコードをリクエストしない)



@ISSREQ1

ISSN Add-On Code Required

(ISSNのアドオンコードをリクエストしない)



@SETUPE0

**** Exit Setup**

インダストリアル25

工場出荷時設定に戻す



@L25DEF

Restore the Factory Defaults of Industrial 25
(インダストリアル 25の工場出荷時設定に戻す)

インダストリアル25を有効化/無効化



@L25ENA1

**** Enable Industrial 25**
(インダストリアル25を有効化)



@L25ENA0

Disable Industrial 25
(インダストリアル25を無効化)



スキャナーがインダストリアル 25バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Industrial 25**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



インダストリアル25の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のインダストリアル25バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 6)



Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 48)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つインダストリアル25バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのインダストリアル25バーコードしかデコードしません。



スキャナーが8～12文字のインダストリアル25バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



チェックキャラクタ認証

チェックキャラクタはインダストリアル 25バーコードのオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable（無効化）：スキャナーはインダストリアル25バーコードをそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）：スキャナーは、インダストリアル25バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification（検証後、チェックキャラクタを送信）：スキャナーは、インダストリアル25バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



**** Disable（無効化）**



**Do Not Transmit Check Character After Verification
（検証後チェックキャラクタを送信しない）**



**Transmit Check Character After Verification
（検証後、チェックキャラクタを送信）**



Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後チェックキャラクタを送信しない） オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いインダストリアル25バーコードはデコードされません（例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むインダストリアル25バーコードは読み取られません）。



**** Exit Setup**



スタンダード 25

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Standard 25
(スタンダード25の工場出荷時設定に戻す)

スタンダード 25を有効化/無効化



**** Enable Standard 25**
(スタンダード 25を有効化)



Disable Standard 25
(スタンダード 25を無効化)



スキャナーがスタンダード25バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Standard 25**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



スタンダード 25の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のスタンダード25バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@S25MIN

Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 6)



@S25MAX

Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 48)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つスタンダード25バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのスタンダード25バーコードしかデコードしません。



スキャナーが8～12文字のスタンダード25バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタ認証

チェックキャラクタはスタンダード25バーコードのオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable（無効化）：スキャナーはスタンダード25バーコードをそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）：スキャナーは、スタンダード25バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification（検証後、チェックキャラクタを送信）：スキャナーは、スタンダード25バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



@S25CHK0

** Disable（無効化）



@S25CHK1

Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後チェックキャラクタを送信しない)



@S25CHK2

Transmit Check Character After Verification

(検証後、チェックキャラクタを送信)

Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後チェックキャラクタを送信しない） オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いスタンダード25バーコードはデコードされません（例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むスタンダード25バーコードは読み取られません）。



@SETUPE0

** Exit Setup

Plessey

工場出荷時設定に戻す



@PLYDEF

Restore the Factory Defaults of Plessey
(Plesseyの工場出荷時設定に戻す)

Plesseyを有効化/無効化



@PLYENA1

Enable Plessey (Plesseyを有効化)



@PLYENA0

****Disable Plessey (Plesseyを無効化)**



スキャナーがPlesseyバーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Plessey**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



Plesseyの長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のPlesseyバーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 4)



Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 48)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つPlesseyバーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのPlesseyバーコードしかデコードしません。



スキャナーが 8～12 文字の Plessey バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



チェックキャラクタ認証

チェックキャラクタはPlesseyバーコードのオプションであり、最後の2文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable（無効化）：スキャナーはスタンダード25バーコードをそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification（検証後にチェックキャラクタを送信しない）：スキャナーは、Plesseyバーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification（検証後、チェックキャラクタを送信）：スキャナーは、Plesseyバーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



**** Disable（無効化）**



**Do Not Transmit Check Character After Verification
（認証後チェックキャラクタを送信しない）**



**Transmit Check Character After Verification
（検証後、チェックキャラクタを送信）**



Do Not Transmit Check Character After Verification（認証後チェックキャラクタを送信しない） オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いCheck Characterバーコードはデコードされません（例えば、Do Not Transmit Check Character After Verificationのオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むCheck Characterバーコードは読み取られません）。



**** Exit Setup**

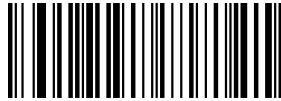


@SETUPE1

Enter Setup

MSI-Plessey

工場出荷時設定に戻す

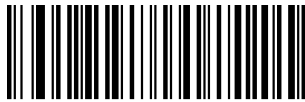


@MSIDEF

Restore the Factory Defaults of MSI-Plessey

(MSI-Plesseyの工場出荷時設定に戻す)

MSI-Plesseyを有効化/無効化



@MSIENA1

Enable MSI-Plessey

(MSI-Plesseyを有効化)



@MSIENA0

**** Disable MSI-Plessey**

(MSI-Plesseyを無効化)



スキャナーがMSI-Plesseyバーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable MSI-Plessey**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**

MSI-Plesseyの長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のMSI-Plesseyバーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 4)



Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 48)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つMSI-Plesseyバーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのMSI-Plesseyバーコードしかデコードしません。



スキャナーが8～12文字のMSI-Plesseyバーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタ認証

チェックキャラクタはMSI-Plesseyのオプションであり、最後の1～2文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

Disable オプションが有効の場合、スキャナーはMSI-Plesseyバーコードをそのまま送信します。



@MSICLK0
** Disable (無効化)



@MSICLK1
One Check Character, MOD10
(1種のチェックキャラクタ、MOD10)



@MSICLK2
Two Check Characters, MOD10/MOD10
(2種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD10)



@MSICLK3
Two Check Characters, MOD10/MOD
(2種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD11)



@SETUPE0
** Exit Setup

チェックキャラクタの送信



@MSITCK1

**** Transmit MSI-Plessey Check Character**

(MSI-Plesseyチェックキャラクタを送信)



@MSITCK0

Do Not Transmit MSI-Plessey Check Character

(MSI-Plesseyチェックキャラクタを送信しない)



チェックキャラクタのアルゴリズムと**Do Not Transmit Check Character**（チェックキャラクタを送信しない）オプションを選択すると、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いMSI-Plesseyバーコードはデコードされません（例えば、**One Check Character**、**MOD10**、**Do Not Transmit Check Character**のオプションが有効で最小長さが4に設定されている場合、合計長さが4でチェックキャラクタを含むMSI-Plesseyは読み取られません）。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



AIM 128

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of AIM 128
(AIM 128の工場出荷時設定に戻す)

AIM 128を有効化/無効化



** Enable AIM 128 (AIM 128を有効化)



Disable AIM 128 (AIM 128を無効化)



スキャナーがAIM 128バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、

Enable AIM 128バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



AIM 128の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のAIM 128バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length
(最小長さ設定 初期設定: 1)



Set the Maximum Length
(最大長さ設定 初期設定: 48)



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つAIM 128バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのAIM 128バーコードしかデコードしません。



スキャナーが8～12 文字のAIM 128バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



**** Exit Setup**



チェックキャラクタの送信



Transmit AIM 128 Check Character (AIM 128のチェックキャラクタを送信)



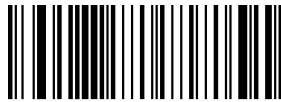
**** Do Not Transmit AIM 128 Check Character
(AIM 128のチェックキャラクタを送信)**

FNC1出力



PDF417

工場出荷時設定に戻す



@PDFDEF

Restore the Factory Defaults of PDF417

(PDF417の工場出荷時設定に戻す)

PDF417を有効化/無効化



@PDFENA1

**** Enable PDF417**

(PDF417を有効化)



@PDFENA0

Disable PDF417

(PDF417を無効化)



スキャナーが PDF417 バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、

Enable PDF417 バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



PDF417の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のPDF417バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length
(最小長さ設定 初期設定: 1)



Set the Maximum Length
(最大長さ設定 初期設定: 2710)



最小長さは最大長さより大きくすることはできません。特定の長さのPDF417バーコードのみ読み取りたい場合、最小長さと最大長さを同じ値に設定してください。



スキャナーが8～12文字のPDF417バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



PDF417 ツインコード

PDF417ツインコードは 垂直または水平に並んだ2つのPDF417バーコードです。2つのPDF417バーコードは必ず通常または白黒反転したPDF417バーコードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

PDF417ツインコードには3種類の読み取りオプションがあります。

◇ **Single PDF417 Only (いずれかのPDF417のみ)** : いずれか一方のPDF417バーコードのみ読み取ります。

◇ **Twin PDF417 Only(両方のPDF417のみ)** : 左 (上) のPDF417バーコードから右 (下) へ読み込みます。

◇ **Both Single & Twin (いずれか一方&両方)** : 両方のPDF417バーコードを読み込みます。成功すると、両方のPDF417バーコードを送信し、失敗した場合、いずれか一方のPDF417バーコードのみ送信します。



@PDFDOU0

**** Single PDF417 Only**
(いずれかのPDF417のみ)



@PDFDOU1

Twin PDF417 Only(両方のPDF417のみ)



@PDFDOU2

Both Single & Twin (
いずれか一方&両方)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

白黒反転PDF417コード

通常バーコード: 背景の色が明るく、バーの色が暗いです。

白黒反転バーコード: 背景の色が暗く、バーの色が明るいのです。



@PDFINV0

**** Decode Regular PDF417 Barcodes Only**
(通常のPDF417バーコードのみデコード)



@PDFINV2

Decode Both (両方デコード)



@PDFINV1

Decode Inverse PDF417 Barcodes Only
(白黒反転のPDF417バーコードのみデコード)



@SETUPE0

**** Exit Setup**

文字エンコード



@PDFENC0

**** Default Character Encoding**
(デフォルトの文字エンコード)



@PDFENC1

UTF-8

PDF417 ECI出力



@PDFECI0

Disable PDF417 ECI Output
(PDF417 ECI 出力を無効化)



@PDFECI1

**** Enable PDF417 ECI Output**
(PDF417 ECI 出力を有効化)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



QR コード

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of QR Code
(QR コードの工場出荷時設定に戻す)

QRコードを有効化/無効化



** Enable QR Code (QRコードを有効化)



Disable QR Code (QRコードを無効化)



スキャナーがQRコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、

Enable QR Codeバーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



QRコードの長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のQRコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 1)



Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 7089)



最小長さは最大長さより大きくすることはできません。特定の長さのQRコードのみ読み取りたい場合、最小長さと最大長さを同じ値に設定してください。



スキャナーが8～12文字のQRコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



**** Exit Setup**



QR ツインコード

QRツインコードは 垂直または水平に並んだ2つのQRコードです。2つのQRコードは必ず通常または白黒反転したQRコードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

QRツインコードには3種類の読み取りオプションがあります。

Single QR Only (いずれかのQRコードのみ) : いずれか一方のQRコードのみ読み取ります。

Twin QR Only(両方のQRコードのみ) : 左 (上) のQRコードから右 (下) へ読み込みます。

Both Single & Twin (いずれか一方&両方) : 両方のQRコードを読み込みます。成功すると、両方のQRコードを送信し、失敗すると、いずれか一方のQRコードのみ送信します。



**** Single QR Only (いずれかのQRコードのみ)**



Twin QR Only (両方のQRコードのみ)



Both Single & Twin (いずれか一方&両方)



文字エンコード



@QRCEC0

**** Default Character Encoding**
(デフォルトの文字エンコード)



@QRCEC1

Decode Inverse QR Barcodes Only
(白黒反転QRコードのみデコード)

QR ECI 出力



@QRCEI0

Disable QR ECI Output
(QR ECI 出力を無効化)



@QRCEI1

**** Enable QR ECI Output**
(QR ECI 出力を有効化)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



Micro QRコード

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Micro QR
(Micro QRコードの工場出荷時設定に戻す)

Micro QRを有効化/無効化



**** Enable Micro QR**
(Micro QRを有効化)



Disable Micro QR
(Micro QRを無効化)



スキャナーがMicro QRコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、
Enable Micro QRコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



Micro QRコードの長さ調節

スキャンが最小長さ以上、最大長さ以下のMicro QRコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 1)



Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 35)



最小長さは最大長さより大きくすることはできません。特定の長さのMicro QRコードのみ読み取りたい場合、最小長さと最大長さを同じ値に設定してください。

Example

スキャンが8～12文字のMicro QRコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



**** Exit Setup**



データマトリックス

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Data Matrix

(データマトリックスの工場出荷時設定に戻す)

データマトリックスを有効化/無効化



**** Enable Data Matrix**

(データマトリックスを有効化)



Disable Data Matrix

(データマトリックスを無効化)



スキャンがデータマトリックスバーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Data Matrix**バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



データマトリックスの長さ調節

スキャンが最小長さ以上、最大長さ以下のデータマトリックスコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



Set the Minimum Length

(最小長さ設定 初期設定: 1)



Set the Maximum Length

(最大長さ設定 初期設定: 3116)



最小長さは最大長さより大きくすることはできません。特定の長さのデータマトリックスコードのみ読み取りたい場合、最小長さと最大長さを同じ値に設定してください。



スキャンが8～12文字のデータマトリックスコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



**** Exit Setup**



データマトリックスツインコード

データマトリックスツインコードは 垂直または水平に並んだ2つのデータマトリックスコードです。2つのデータマトリックスコードは必ず通常または白黒反転したデータマトリックスコードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

データマトリックスツインコードには3種類の読み取りオプションがあります。

Single Data Matrix Only (いずれかのデータマトリックスコードのみ) : いずれか一方のデータマトリックスコードのみ読み取ります。

Twin Data Matrix Only (両方のデータマトリックスコードのみ) : 左 (上) のデータマトリックスコードから右 (下) へ読み込みます。

Both Single & Twin (いずれか一方&両方) : 両方のデータマトリックスコードを読み込みます。成功すると、両方のデータマトリックスコードを送信し、失敗した場合、いずれか一方のデータマトリックスコードのみ送信します



**** Single Data Matrix Only**

(いずれかのデータマトリックスコードのみ)



Twin Data Matrix Only

(両方のデータマトリックスコードのみ)



Both Single & Twin

(いずれか一方&両方)



長方形バーコード

データマトリックスコードは2種類の形式があります。

正方形バーコードは縦と横の長さが同じバーコードです（例：10×10、12×12.... 144×144）。

長方形バーコードは縦と横の長さが違うバーコードです（例：6×16、6×14...14×22）



@DMCREC1

**** Enable Rectangular Barcode**

(長方形バーコードを有効化)



@DMCREC0

Disable Rectangular Barcode

(長方形バーコードを無効化)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

文字エンコード



@DMCENC0
** Default Character Encoding
(デフォルトの文字エンコード)



@DMCENC1
UTF-8

データマトリックスコードのECI 出力



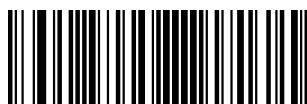
@DMCEC10
Disable Data Matrix ECI Output
(データマトリックスコードの ECI 出力を無効化)



@DMCEC11
** Enable Data Matrix ECI Output
(データマトリックスコードの ECI 出力を有効化)



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

第6章 データフォーマット

概要

データフォーマットを使用して、スキャナーの出力を変更できます。例えば、データフォーマットを使用してバーコードデータの特定の位置に文字を挿入したり、バーコードデータをスキャンする際に特定の文字を抑制/置換/送信したりすることができます。

通常、バーコードをスキャンすると自動的に出力されますが、フォーマットを作成した場合、データを出力する際、フォーマットのプログラミング内で「送信」コマンド（本章の「送信コマンド」の項目を参照）を使用する必要があります。複数のデータフォーマットをスキャナーにプログラムできます。作成可能なデータフォーマットの最大サイズは2048文字です。初期設定では、データフォーマットは無効ですので、必要に応じて有効にしてください。データフォーマットの設定を変更後、各フォーマットをクリアして工場出荷状態に戻したい場合は、以下の**Default Data Format**（データフォーマットを初期化）コードをスキャンしてください。



@DFMDEF
**Default Data Format（データフォーマットを初期化）

データフォーマットを追加

データフォーマットは通常はバーコードデータの編集に使用されます。データフォーマットを作成する際、データフォーマットの4つのラベル（Format_0、Format_1、Format_2、Format_3）から1つを選択し、データフォーマットの適用範囲（バーコードタイプやデータ長さなど）を指定し、フォーマットコマンドを含める必要があります。同一のラベルで複数のデータフォーマットを作成できます。スキャンしたデータがデータフォーマットの要件と一致しない場合、非一致エラー音（ブザー）が鳴ります（非一致エラーブザーがONの場合）。

データフォーマットのプログラムはバーコードによるプログラミングとシリアルコマンドによるプログラミングの2種類があります。



@SETUPE0
** Exit Setup



バーコードによるプログラミング

ここでは、特定のバーコードをスキャンしてデータフォーマットをプログラムする方法を説明します。無関係なバーコードをスキャンしたり、設定手順に従わなかったりすると、プログラミングに失敗します。データフォーマットの作成に必要な英数字のバーコードは、付録の「英数字バーコード」の項を参照してください。

Step 1: Enter Setup バーコードをスキャンします。

Step 2: Add Data Format バーコードをスキャンします。





@SETUPE1
Enter Setup



@DFMADD
Add Data Format
(データフォーマットを追加)

Step 3: ラベル (Format_0、Format_1、Format_2、Format_3のいずれか) を選択します。

数字のバーコード0~3のいずれかをスキャンして、このデータフォーマットのFormat_0~3のいずれかのラベルを付けます。

Step 4: フォーマッタのコマンドタイプを選択します。

使用するフォーマッタコマンドの種類を指定します。英数字バーコードの6を読み取ると、フォーマッタコマンドタイプ 6 が選択されます。詳細は、本章の「フォーマッタコマンドタイプ 6」の項目を参照してください。

Step 5: インターフェースのタイプを設定します。

各インターフェースに対応する999をスキャンします。

Step 6: シンボロジーIDを設定します。

付録の「シンボロジーID」の項目を参照し、データフォーマットを適用したいシンボロジーのID番号を確認します。シンボロジーIDに該当する3つの英数字バーコードをスキャンします。すべてのシンボロジーのデータフォーマットを作成したい場合は、999をスキャンします。

Step 7: データの長さを設定します。

このシンボロジーで許容されるデータの長さを指定します。データの長さを表す4つの英数字バーコードをスキャンします。9999は、すべての長さに対応するユニバーサルナンバーです。例えば、32文字の場合は「0032」と入力します。

Step 8: フォーマッタコマンドを入力します。

本章の「フォーマッタコマンドタイプ6」の項を参照してください。データ編集に必要なコマンドを表す英数字のバーコードをスキャンします。例えば、コマンドがF141の場合は、F141をスキャンします。

Step 9: 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションのSave バーコードをスキャンしてデータフォーマットを保存します。

Example

フォーマッタコマンドタイプ6を使用して、Format_0のデータフォーマットをプログラムします。Code 128には10文字を適用し、すべての文字の後に「A」を付けて送信します。

1. Enter Setupバーコードをスキャンします。→ セットアップモードに入ります。
2. Add Data Formatバーコードをスキャンします。→ データフォーマットを追加します。
3. 「0」バーコードをスキャンします。→ ラベルにFormat_0を選択します。
4. 「6」のバーコードをスキャンします。→ フォーマッタコマンドタイプ 6 を選択します。
5. 「9」のバーコードを3回スキャンします。→ これですべてのインターフェースタイプにします。
6. 「002」のバーコードをスキャンします (Code 128のみ適用可能)。
7. 「0010」のバーコードをスキャンします (10文字までの長さのみ適用可能)。
8. 英数字のバーコードをスキャンします。→ F141「A」に続くすべての文字を送信 (HEX: 41) します。
9. Saveバーコードをスキャンします。→ データフォーマットを実行します。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

プログラミングプロセスを最適化するため、データフォーマットを作成するためのコマンド（例：**@DFMADD069990020010F141;**）を入力して、バッチバーコードを生成することもできます。バッチバーコードの使用方法については、第9章の「バッチバーコードの使用」を参照してください。

ラベルを共有する複数のデータフォーマットを作成する場合、フォーマットは**@DFMADD069990029999F141|069990039999F142|069990049999F143;**のように、バッチコマンドの中で縦棒（|）でお互い区切られています。

シリアルコマンドによるプログラミング

A データフォーマットは、ホスト機器から受信するシリアルコマンド（HEX）でも作成できます。コマンドは全て大文字で入力する必要があります。

構文は以下の要素で構成されています。

Prefix（プリフィックス）：“~<SOH>0000”（HEX: 7E 01 30 30 30）、6文字。

Storage type（ストレージタイプ）：「@」（HEX: 40）または「#」（HEX: 23）、1文字。「@」はスキャナーの電源を切っても再起動しても失われない永久的な設定を意味し、「#」はスキャナーの電源を切ったり再起動したりしたら失われる一時的な設定を意味します。

Add Data Format Command（データフォーマットコマンドを追加）：“DFMADD”（HEX: 44 46 4D 41 44 44）、6文字。

Data format label（データフォーマットラベル）：「0」（HEX:30）、「1」（HEX:31）、「2」（HEX:32）、「3」（HEX:33）のうちいずれか1文字です。「0」、「1」、「2」、「3」はそれぞれ、Format_0、Format_1、Format_2、Format_3を表します。

Formatter command type（フォーマットコマンドタイプ）：「6」（HEX: 36）、1文字。

Interface type（インターフェースタイプ）：「999」（HEX: 39 39 39）、3文字。

Symbology ID Number（シンボロジーID）：データフォーマットを適用したいシンボロジーのID（3文字）。999は全てのシンボロジーに対応します。

Data length（データ長さ）：このシンボロジーで許容されるデータの長さ（4文字）。9999は全ての長さに対応します。例えば、32文字の場合は「0032」と入力します。

Formatter commands（フォーマットコマンド）：データの編集に使用するコマンド文字列です。詳細は、本章の「フォーマットのコマンドタイプ6」の項を参照してください。

Suffix（サフィックス）：“;<ETX>”（HEX: 3B 03）、2文字。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

例：フォーマットコマンドタイプ6を使用して、Format_0データフォーマットをプログラムすると、Code 128には10文字が適用され、「A」の前の全ての文字が送信されます。

入力: 7E 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 3B 03

(~<SOH>0000@DFMADD069990020010F141;<ETX>)

レスポンス: 02 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 06 3B 03

(<STX><SOH>0000@DFMADD069990020010F141<ACK>;<ETX>)

ラベルを共有する複数のデータフォーマットを作成する場合は、以下のようにシリアルコマンドの縦棒（|）でフォーマットを区切ります。

例: ~<SOH>0000@DFMADD069990020010F141|069990039999F142|069990049999F143;<ETX>



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

データフォーマットを有効化/無効化

データフォーマットが無効である場合、バーコードデータはプリフィックスとサフィックスを含み読み込みデータとしてホスト機器へ出力されます。



@DFMENAO

**** Disable Data Formatter**

(データフォーマットを無効化)

自分で作成したデータフォーマットに適合したデータをリクエストすることができます。以下の設定は、作成したデータフォーマットに適用できます。

データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを保持: データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。データフォーマットの要件に適合しないデータは、エラーを示すブザーがなり（非適合エラー通知ブザーがONの場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを喪失: データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスやサフィックスなしで出力されます（プリフィックスやサフィックスを有効にしている場合も同様）。データフォーマットの要件に適合しないデータは、エラーを示すブザーがなり（非適合エラー通知ブザーがONの場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを保持: データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。データフォーマットの要件に適合しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックスとともに、読み取りデータとして送信されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。

データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを喪失: データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスやサフィックスなしで出力されます（プリフィックスやサフィックスを有効にしている場合も同様）。データフォーマットの要件に適合しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックスとともに、読み取りデータとして送信されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup



@DFMENA1

Enable Data Formatter, Required, Keep Prefix/Suffix

(データフォーマッタを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを保持)



@DFMENA2

Enable Data Formatter, Required, Drop Prefix/Suffix

(データフォーマッタを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを喪失)



@DFMENA3

Enable Data Formatter, Not Required, Keep Prefix/Suffix

(データフォーマッタを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを保持)



@DFMENA4

Enable Data Formatter, Not Required, Drop Prefix/Suffix

(データフォーマッタを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを保持)



@SETUPE0

Enable Data Formatter, Not Required, Drop Prefix/Suffix

(データフォーマッタを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを保持)



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

非適合エラー通知ブザー

Non-Match Error Beep (非適合エラー通知ブザー オン) がONの場合、データフォーマットの要件と一致しないバーコードに遭遇した場合、スキャナーはエラーを通知するブザーを鳴らします。



@DFMTON0
Non-Match Error Beep Off
(非適合エラー通知ブザー オフ)



@DFMTON1
**** Non-Match Error Beep On**
(非適合エラー通知ブザー オン)

データフォーマット選択

データフォーマットを有効化後、以下の適切なバーコードをスキャンして使用したいデータフォーマットを選択できます。初期設定は「Format_0」です。



@DFMUSE0
**** Format_0**



@DFMUSE1
Format_1



@DFMUSE2
Format_2



@DFMUSE3
Format_3



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

シングルスキャンでデータフォーマットを切り替え

シングルスキャンしてデータフォーマットを切り替えることができます。次のバーコードは、ここで選択したデータ形式でスキャンされ、その後、上で選択した形式に戻ります。

例えば、Format_3として保存したデータ形式を使用するようにスキャナーを設定したとします。以下の**Single Scan – Format_1** バーコードをスキャンすると、トリガーを1回引くだけでFormat_1に切り替えることができます。次にスキャンされるバーコードは、Format_1を使用し、その後Format_3に戻ります。

注意：この設定は、スキャナーを電源オフ、デバイスを電源オフまたは再起動すると失われます。



@DFMSIN0

Single Scan – Format_0

(シングルスキャンでFormat_0へ切り替え)



@DFMSIN1

Single Scan – Format_1

(シングルスキャンでFormat_1へ切り替え)



@DFMSIN2

Single Scan – Format_2

(シングルスキャンでFormat_2へ切り替え)



@DFMSIN3

Single Scan – Format_3

(シングルスキャンでFormat_3へ切り替え)



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

データフォーマットをクリア

スキャナーから作成したデータフォーマットを削除する方法は2種類あります。

データフォーマットを1件削除: **Clear One** バーコード、英数字バーコード(0-3)、**Save** バーコードをスキャンします。例えば、**Format_2**を削除する場合、**Clear One**バーコード、英数字バーコード「2」、**Save**バーコードをスキャンします。

データフォーマットを全て削除: **Clear All**バーコードをクリアします。



@DFMCAL
Clear All
(全てクリア)



@DFMCLR
Clear One
(1件クリア)

データフォーマットをクエリ

以下の適切なバーコードをスキャンすると、お客様が作成した、またはメーカーが初期設定したデータフォーマットの情報を得ることができます。例えば、本章の「データフォーマットの追加」の項目の例に従って**Format_0**を追加した場合、**Query Current Data Formats**のバーコードをスキャンすると、以下のような結果が得られます。

Data Format0:069990020010F141;



@DFMQCU
Query Current Data Formats
(現在のデータフォーマットをクエリ)



@DFMQFA
Query Preset Data Formats
(初期設定のデータフォーマットをクエリ)

データフォーマットコマンドタイプ6



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

データフォーマットの操作では、入力データの文字列に沿って仮想カーソルが移動します。以下のコマンドは、このカーソルを別の位置に移動、データの選択、置き換え、最終出力の挿入に使用されます。コマンドに含まれるASCII文字のHEX値については、付録の「ASCII表」を参照してください。

送信コマンド

F1 全ての文字の送信

構文=F1xx (xx: 挿入文字の HEX値)

現在のカーソル位置から始まり、挿入文字が続く入力メッセージのすべての文字を出力メッセージに含めます。

F2 指定の文字数の送信

構文=F2nnxx (nn : 文字数を表す数値 (00～99) 、xx : 挿入文字のHEX値)。

出力メッセージに、挿入文字が続く文字数を含める。現在のカーソル位置から開始し、「nn」文字分、または入力メッセージの最後の文字まで続け、その後に文字「xx」が続きます。

F2の例: 指定の文字数の送信



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードの最初の10文字を送信し、その後にキャリッジリターンを入力します。

コマンド文字列: F2100D

F2は Send a number of characters (指定の文字数の送信) コマンドです。

10 は送信する文字数です。

0D は CR を表す HEX値です。

データは以下のように出力されます。

1234567890

<CR>

F3 特定文字まで全ての文字を送信



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

構文=F3ssxx (ss: 特定文字の HEX値、xx: 挿入文字の HEX値)

入力メッセージのすべての文字を出力メッセージに含めます。現在のカーソル位置にある文字から始まり、特定の文字「ss」に続く文字「xx」が続きますが、それは含まれません。カーソルは「ss」の文字まで進みます。

F3の例: 特定文字まで全ての文字を送信r



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードを使って、「D」までのすべての文字と、それに続くキャリッジリターンを送信します。

コマンド文字列: F3440D

F3はSend all characters up to a particular character (特定文字まで全ての文字を送信) コマンドです。

44 は「D」を表す HEX値です。

0D は CR を表す HEX値です。

データは以下のように出力されます。

1234567890ABC

<CR>

構文=B9nnnns...s (nnnn:特定の文字列の長さ、s...s: 特定の文字列内の各文字のHEX値)

現在のカーソル位置から始まり特定の文字列「s...s」まで続く入力メッセージの全ての文字（「s...s」の文字列除く）を出力メッセージに含めます。カーソルは「s...s」文字列の先頭へ移動します。

B9の例: 全ての文字を特定の文字列まで送信



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードを使用し、「AB」（除外）までの全ての文字を送信します。

コマンド文字列: B900024142



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

B9 は **Send all characters up to a particular string** (全ての文

字を特定の文字列まで送信) コマンドです。

0002 は特定の文字列の長さ (2 文字) です。

41 は「A」 (文字列内の文字) のHEX値です。

42 は「B」 (文字列内の文字) のHEX値です。

データは以下のように出力されます。

1234567890

E9 ストップキャラクタを除く全ての文字を送信

構文=E9nn (nn: メッセージの最後に送信しない文字数を示す数値 (00~99))。

現在のカーソル位置から、最後の「nn」文字を除くすべての文字を出力メッセージに含みます。カーソルは、含まれる最後の入力メッセージ文字の1つ前の位置へ移動します。

F4 文字を複数回挿入

構文=F4xxnn (xx: 挿入文字のHEX値、nn: 送信回数を示す数値 (00-99))。

カーソルを現在の位置に残したまま、出力メッセージに「xx」文字を「nn」回送信します。

E9とF4の例: ストップキャラクタを除くすべての文字と、それに続く2つのタブを送信



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードの末尾の8文字を除くすべての文字と、それに続く2つのタブを送信します。

コマンド文字列: E908F40902



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

E9は**Send all but the last characters**（ストップキャラクタを除くすべての文字を送信）コマンドです。

08は無視する末尾の文字数です。

F4は**Insert a character multiple times**（複数回文字を挿入）コマンドです。

09は水平タブを表す HEX値です。

02はタブ文字を送信する回数です。

データは以下のように出力されます。

1234567890AB<tab><tab>

B3 シンボロジー名を挿入

カーソルを移動させずに、バーコードのシンボロジー名を出力メッセージに挿入します。

B4 バーコードの長さを挿入

カーソルを移動させずに、バーコードの長さを出力メッセージに挿入します。長さは数字の文字列で表され、先頭のゼロは含まれません。

B3、B4の実例：シンボロジー名と長さの挿入



S上記のバーコードからのバーコードデータの前に、シンボロジー名と長さを送信します。これらの挿入をスペースで区切ります。キャリッジリターンで終了します。

コマンド文字列: B3F42001B4F42001F10D

B3は**Insert symbology name**（シンボロジー名の挿入）コマンドです。

F4は**Insert a character multiple times**（複数回文字を挿入）コマンドです。

20はスペースのHEX値です。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

01 はスペース文字の送信回数です。

B4 はInsert barcode length（バーコードの長さを挿入）コマンドです。

F4 はInsert a character multiple timesコマンドです。

20 はスペースを表す HEX値です。

01 はスペース文字の送信回数です。

F1 はSend all characters（全ての文字を送信）コマンドです。

0DはCRのHEX値です。

データは以下のように出力されます。

Code128 20 1234567890ABCDEFGHIJ

<CR>



@SETUPE0

**** Exit Setup**



移動コマンド

F5 カーソルを特定の文字数分を前に移動

構文=F5nn (nn: カーソルを前方に移動させる文字数を示す数値 (00～99))

現在のカーソル位置から「nn」文字分前にカーソルを移動します。

F5 の例 : カーソルを前方に移動してデータを送信



カーソルを 3 文字分前方に移動し、残りのバーコードデータを上記のバーコードから送信します。最後にキャリッジリターンで終了します。

コマンド文字列 : **F503F10D**

F5は**Move the cursor forward a number of characters** (カーソルを特定の文字数分を前に移動) コマンドです。

03 はカーソルを移動させる文字数です。

F1 はSend all charactersコマンドです。

0DはCRのHEX値です。

データは以下のように出力されます。

4567890ABCDEFGHIJ

<CR>





@SETUPE1

Enter Setup

F6 カーソルを指定の文字数分後ろに移動

構文=F6nn (nn: カーソルを後ろに移動させる文字数を表す数値(00-99))

現在のカーソル位置から「nn」文字分後ろにカーソルを移動します。

F7 カーソルを先頭に移動

構文=F7

カーソルを入力メッセージの最初の文字に移動します。

EA カーソルを最後に移動

構文=EA

カーソルを入力メッセージの最後の文字に移動します。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

検索コマンド

F8 文字列の前方検索

構文=F8xx (xx: 検索文字の HEX値)

カーソルが「xx」の文字を指している状態で、入力メッセージを現在のカーソル位置から「xx」の文字分だけ前方に検索します。

F8 の例：特定の文字の後から始まるバーコードデータを送信



バーコードで「D」の文字を検索し、「D」を含むその後のデータをすべて送信する。上記のバーコードを使用します。

コマンド文字列：F844F10D

F8はSearch forward for a character（文字列の前方検索）コマンドです。

44は「D」のHEX値です。

F1はSend all charactersコマンドです。

0Dは「CR」のHEX値です。

データは以下のように出力されます。

DEFGHIJ

<CR>



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

F9 文字の後方検索

構文=F9xx(xx : 検索文字の HEX値)

カーソルが「xx」の文字を指している状態で、入力メッセージを現在のカーソル位置から「xx」の文字へ遡って検索します。

B0 文字列の前方検索

構文=B0nnnnS (nnnn: 文字列の長さ (9999 まで)、S: 文字列内の各文字の ASCII の HEX値)

カーソルを文字列「S」に向けたまま、現在のカーソル位置から「S」まで文字列を前方に検索します。例えば、

B0000454657374 は「Test」という 4 文字の文字列の最初の出現箇所を検索します。

B0の例：文字列の後から始まるバーコードデータを送信



1234567890ABCDEFGHJIJ

バーコードで「FGH」の文字を検索し、「FGH」を含む後のデータをすべて送信します。上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列:**B00003464748F10D**

B0は**Search forward for a string**（文字列の前方検索）コマンドです。

0003は文字列の長さ（3文字）です。

46は「F」のHEX値です。

47は「G」のHEX値です。

48は「H」のHEX値です。

F1 は**Send all characters**コマンドです。

0DはCRのHEX値です。

データは以下のように出力されます。

FGHIJ

<CR>



@SETUPE0

** Exit Setup



B1 文字列の後方検索

構文=B1nnnnS (nnnn: 文字列の長さ (9999まで)、S: 文字列中の各文字のASCIIのHEX値)。

カーソルを文字列「S」に向けたまま、現在のカーソル位置から文字列「S」を後方一致検索します。例えば、
「B1000454657374」と入力すると、「Test」という4文字の文字列の最初の出現箇所を後方に検索します。

E6 一致しない文字の前方検索

構文=E6xx (xx: 検索文字の HEX値)

カーソルを「xx」でない文字に向けたまま、現在のカーソル位置から最初の「xx」でない文字を前方一致検索します。

E6の例: バーコードデータの先頭のゼロを削除



この例では、先頭がゼロ埋めされたバーコードを示しています。ゼロを無視して、後に続く全てのデータを送信したいとします。E6は、ゼロではない最初の文字を前方に検索し、その後のすべてのデータを送信し、後にキャリッジリターンが続きます。上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列: E630F10D

E6はSearch forward for a non-matching character (一致しない文字の前方検索) コマンドです。

30は0のHEX値です。

F1はSend all charactersコマンドです。

0DはCRのHEX値です。

データは以下のように出力されます。

37692

<CR>

E7 一致しない文字を後方検索する

構文=E7xx(xx: 検索文字の HEX値)

カーソルを「xx」ではない文字に向けたまま、現在のカーソル位置から最初の「xx」
ではない文字を後方に検索し、入力メッセージを検索します。





@SETUPE1

Enter Setup

比較コマンド

B2 文字列は「B@」と比較されます。

構文= B2nnnnSS₁SS_n (nnnn : 文字列の長さ、SS₁- SS_n : 文字列のHEX値)

比較は現在のカーソル位置の右側から始まり、カーソルはnnnn 文字を右へ移動します。カーソルの移動範囲内の文字列がSS₁SS_nに等しい場合、コマンドを引き続き実行し、そうでない場合は終了します。

B2の例:文字列を指定後、データを送信



Test123456

上記のバーコードは「Test」文字列で始まり、Test文字列の内容送信を要求し、最後にキャリッジリターンを必要とします。

コマンド文字列: **B2000454657374F10D**

B2は**comparison of the character string** (文字列の比較) コマンドです。

0004 は文字列の長さです(4文字)。

54 は「T」のHEX値です。

65 は「e」のHEX値です。

73 は「s」のHEX値です。

74 は「t」のHEX値です。

F1 は**Send all characters**コマンドです。

0DはキャリッジリターンのHEX値です。

データは以下のように出力されます。

123456

<CR>



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUP E1
Enter Setup

EC カーソル右側の文字が数字かチェック

このコマンドはパラメータを必要としません。カーソル右側が数字でない場合、現在のコマンドは終了し、数字でない場合はコマンドを継続します。

EC の例:数字で始まるバーコードデータの送信



0000123abc

上記のバーコードは数字で始まって内容送信を要求し、最後にキャリッジリターンを必要とします。

コマンド文字列: **ECF10D**

ECはカーソル右側が数字かチェックするコマンドです。

F1は**Send All Characters**コマンドです。

0D「CR」のHEX値です。

データは以下のように送信されます。

0000123abc<CR>

EDカーソル右側の文字が数字ではないかをチェック

このコマンドはパラメータを必要としません。カーソル右側が数字の場合、現在のコマンドは終了し、数字である場合はコマンドを継続します。

ED の例:数字で始まらないバーコードデータの送信



Test123456

上記のバーコードは数字以外で始まってバーコード送信を要求し、最後にキャリッジリターンを必要とします。

コマンド文字列: **EDF10D**

ECはカーソル右側が数字かチェックするコマンドです。

F1は**Send all characters**コマンドです。

0DはキャリッジリターンのHEX値です。

データは以下のように送信されます。

Test123456

<CR>



@SETUP E0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

FE 文字の比較

構文 = FExx (xxは文字のHEX値です)

カーソル位置右側の文字が「xx」の場合、コマンドは継続し、それ以外の場合は終了します。

FE の例: バーコードが「1」の文字で始まり、バーコードの最初の6バイトを送信する場合



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードは「1」の文字で始まり、「1」の文字とその後5文字の送信を要求します。

コマンド文字列: **FE31F7F2060D**

FE は**Character Compare** (文字の比較) コマンドです。

31 は「1」の文字のHEX値です。

F7 は**Move cursor to starting position** (カーソルを開始位置へ移動) コマンドです。

F2 は**Send several characters** (一部の文字を送信) コマンドです。

06 は**Send character length** (文字の長さ情報を送信) コマンドです。

0D はキャリッジリターンのHEX値です。

データは以下のように送信されます。

123456

<CR>



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

その他コマンド

FB 文字数抑止

構文=FBnnxxyy...zz (nn : 抑制する文字数を表す数値 (00~15)、xxyy..zz : 抑制する文字のHEX値)

現在のカーソル位置から、他のコマンドでカーソルを進めたときに、最大15種類の異なる文字の出現をすべて抑制します。

FBの例：バーコードデータのスペースを削除



ここでは、データに「_」や「*」が含まれているバーコードの例を示しています。データを送信する前に、3種類の文字を削除できます。上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列: **FB03205F2AF10D**

FBは**Suppress characters**コマンドです。

03は抑制する文字の番号です。

20 はスペースを表す HEX値です。

F1 は**Send all characters**コマンドです。

0DはCRのHEX値です。

データは以下のように出力されます：1234_5*678

5Fは「_」のHEX値です。

2A は「*」のHEX値です。

F1 は**Send all characters**コマンドです。

0DはCRのHEX値です。

データは以下のように出力されます。

12345678

<CR>



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

E4 文字の置換

構文=E4nnxx1xx2yy1yy2...zz1zz2 nn : (置換する文字+置換される文字) の合計文字数 xx1 : 置換される文字、xx2 : 置換する文字、zz1、zz2 と続く)。カーソルを移動させずに、出力メッセージの 15 文字までを置き換えることができます。

E4 の例: バーコードデータのゼロと CR の置換



12304560780AB

バーコードにホストアプリケーションが含またくない文字がある場合、E4 コマンドを使用してそれらの文字を別の文字に置換することができます。この例では、上記のバーコードのゼロをキャリッジリターンに置換します。

コマンド文字列: E402300DF10D

E4はReplace characters (文字の置換) コマンドです。

02は置換する文字数に置換される文字数を加えた総文字数 (0はCRに置換され、合計文字数は2文字になります)。

30は0のHEX値です。

0DはCRのHEX値(0を置換する文字)です。

F1はSend all characters コマンドです。

0DはCRのHEX値です。

データは以下のように出力されます。

123

456

78

AB

<CR>



@SETUPE0

** Exit Setup



BA 文字列を他の文字列に置換

構文=BA nn NN_1 SS_1 NN_2 SS_2

nn : 置換する文字列の数。 $nn=00$ または $nn>=$ 置換する文字列の出現回数の場合、その文字列の出現回数をすべて置換します。

NN_1 : 置換される文字列の長さ、 $NN_1>0$ 。

SS_1 : 置換される文字列の各文字の ASCII の HEX 値です。

NN_2 : 置換される文字列の長さ、 $NN_2>=0$ 。文字列「 SS_1 」を NUL に置換する（すなわち、文字列「 SS_1 」の削除）には、 NN_2 を 00 に設定し、 SS_2 を省略する必要があります。

SS_2 : 置換文字列の各文字の ASCII の HEX 値です。

現在のカーソル位置から、「 SS_1 」文字列（長さ「 NN_1 」）の出現箇所を前方検索し、「 SS_1 」文字列がすべて置換されるか、カーソルを動かさずに置換回数が「 nn 」回に達するまで、出力メッセージ内の「 SS_2 」文字列（長さ「 NN_2 」）と置換します。

BA の例: 「23」をバーコードデータの「XYZ」と置換



ホストアプリケーションが含めたくない文字列がバーコードに存在する場合、BAコマンドでその文字列を別の文字列に置換することができます。この例では、上記のバーコードの「23」を「XYZ」に置き換えます。

コマンド文字列: **BA020232330358595AF100**

BAは**Replace a string with another**（文字列を他の文字列に置換）コマンドです。

02は置換する文字列の数です。

02 は置換される文字列の長さです。

32は2（置換される文字列の文字）のHEX値です。

33は3（置換される文字列の文字）のHEX値です。

03 はXYZの文字列の長さです。

58595A は「XYZ」のHEX値です。

F1は**Send all characters**コマンドです。

0DはNULのHEX値です。

データは以下のように出力されます。

1XYZ4AbcXYZR0123U





@SETUPE1

Enter Setup

EF デイレイを挿入

構文=EFnnnn (nnnn : 5ms 単位で最大 9999 までのデイレイ)。

現在のカーソル位置から最大 49,995 ミリ秒 (5 の倍数ごとに) のデイレイを挿入します。このコマンドは、USB HID キーボードでのみ実行可能です。

EF の例 : 5 文字目と 7 文字目の間に 1 秒の遅延を挿入



1234567890ABCDEFGH IJ

バーコードの最初の 5 文字を送信し、1 秒後、残りのバーコードデータの文字を送信します。

コマンド文字列: **F20500EF0200F20200EF0200F100**

F2 は **Send a number of characters** コマンドです。

05 は送信する文字数です (現在のカーソル位置から出力開始)。

00 は Null 文字の HEX 値です。

EF は **Insert a delay (デイレイを挿入)** コマンドです。

0200 はデイレイの値 ($5\text{ms} \times 200 = 1000\text{ms} = 1\text{s}$) です。

E9 は **Send all but the last characters** コマンドです。

00 は Null 文字の数 HEX 値です。

データは以下のように送信されます。

12345{1s delay} 67 {1s delay} 890ABCDEFGH IJ



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

B5 キーストロークの挿入

構文=B5nnssxx (nn：押されたキーの数（キー修飾子なし）、ss：下表のキー修飾子、xx：付録の「Unicodeキーマップ」のキー番号)。

キーストロークまたはキーストロークの組み合わせを挿入します。キーストロークはご利用のキーボードによって異なります（付録の「Unicodeキーマップ」を参照）。このコマンドは、USB HIDキーボードでのみ使用できます。

キー修飾子	
キー修飾子なし	00
左Shift キー	01
右 Shift キー	02
左Alt キー	04
右 Alt キー	08
左 Ctrl キー	10
右 Ctrl キー	20

B5の例：アメリカ式キーボードで「abc」を入力



12345678

コマンド文字列: **B503001F01320030F100**

B5はinserted key（キーを挿入）コマンドです。

03は挿入するキーの数です(キー修飾子のぞく)。

00はキー修飾子なしです。

1Fは「a」キーです。

01は左Shiftです。

32は「b」キーです。

00キー修飾子なしです。

30は「c」キーです。

F1は**sending all characters**コマンドです。

00は「Nul」のHEX値です。

データは以下のように送信されます。

abc12345678



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

第7章 プリフィックス&サフィックス

概要

1次元バーコードには、数字、文字、記号などのデータが含まれています。2次元バーコードは、漢字やその他のマルチバイト文字など、より多くのデータを含むことができます。しかし、実際の利用において、バーコードを短く柔軟性を保つために、バーコードの種類、データ取得時間、区切り文字など、必要なすべての情報を持たず、持つべきではありません。

上記の要件を満たす方法に、プリフィックスとサフィックスがあります。これらは、元のバーコードデータを維持したまま、追加、削除、変更することができます。



バーコード処理プロセス

1. データフォーマットでデータ編集
2. プリフィックスとサフィックスの追加
3. データをパッキング
4. ストップキャラクタの追加

グローバル設定

全てのプリフィックス/サフィックスを有効化/無効化

Disable All Prefix/Suffixes (プリフィックスとサフィックスを無効化) : プリフィックス/サフィックスを追加せずにバーコードデータを送信します。

Enable All Prefixes/Suffixes (プリフィックスとサフィックスを有効化) : Code ID プリフィックス、AIM ID プリフィックス、カスタムプリフィックス/サフィックス、ストップキャラクタをバーコードデータに付加して送信することを許可します。



@APSENA0

**** Disable All Prefixes/Suffixes**

(プリフィックスとサフィックスを無効化)



@APSENA1

Enable All Prefixes/Suffixes

(プリフィックスとサフィックスを有効化)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

プリフィックスシーケンス



@PRESEQ0
** Code ID+ Custom +AIM ID



@PRESEQ1
Custom + Code ID + AIM ID

カスタムプリフィックス

カスタムプリフィックスを有効化/無効化

カスタムプリフィックスを有効にすると、データに 10 文字を超えないユーザー定義のプリフィックスを付加することができます。例えば、カスタムプリフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホスト機器は「AB123」を受信します。



@CPRENA0
** Disable Custom Prefix
(カスタムプリフィックスの無効化)



@CPRENA1
Enable Custom Prefix
(カスタムプリフィックスの有効化)

カスタムプリフィックスの設定

カスタムプリフィックスを設定する場合、**Set Custom Prefix**バーコードをスキャンし、次に必要なプリフィックスの HEX値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save**バーコードをスキャンして完了です。

注意：カスタムプリフィックスは、10文字を超えることはできません。



@CPRSET
Set Custom Prefix
(カスタムプリフィックスを設定)



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

E
xample

カスタムプリフィックスを「CODE」 (HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set Custom Prefix** バーコードをスキャンします。
3. 「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Enable Custom Prefix** バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。

AIM ID プリフィックス

AIM (Automatic Identification Manufacturers : 自動認識工業会) IDは、シンボロジー識別子を定義します (詳細については、付録の「AIM ID表」のセクションを参照してください)。AIM ID プリフィックスを有効にすると、スキャナーは読み取り後のスキャンデータの前にシンボロジー識別子を追加します。



@AIDENA0

**** Disable AIM ID Prefix**

(AIM ID プリフィックスを無効化)



@AIDENA1

Enable AIM ID Prefix

(AIM ID プリフィックスを有効化)



AIM IDはユーザーがプログラムできません。

Code ID プリフィックス



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

Code IDは、バーコードの種類を識別するためにも使用できます。AIM IDとは異なり、Code IDはユーザーがプログラムできます。CodeIDは、1文字または2文字の英字で構成されています。



@CIDENA0

**** Disable Code ID Prefix**

(Code IDプリフィックスを無効化)



@CIDENA1

Enable Code ID Prefix

(Code IDプリフィックスを無効化)

全てのデフォルトのCode IDを復元

デフォルトのCode IDについては、付録の「Code ID表」の項目を参照してください。



@CIDDEF

Restore All Default Code IDs

(全てのデフォルトのCode IDを復元)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

Code IDを変更

Code IDを変更し、各シンボロジーのデフォルトのCode IDを復元方法については、以下の例を参照してください。

E
xample

DF417 Code ID を「p」 (HEX: 0x70)に変更する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Modify PDF417 Code ID** バーコードをスキャンします。
3. 「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「7」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。

各シンボロジーの Code ID をデフォルトに戻す方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Restore All Default Code IDs**バーコードをスキャンします。
3. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。

1次元シンボロジー



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup



@CID002
Code 128



@CID003
GS1-128 (UCC/EAN-128)



@CID004
EAN-8



@CID005
EAN-13



@CID006
UPC-E



@CID007
UPC-A



@CID008
インタリーブド 2 of 5



@CID009
ITF-14



@CID010
ITF-6



@CID011
Matrix 2 of 5



@CID013
Code 39



@CID015
Codabar



@CID017
Code 93



@CID019
China Post 25



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



@CID020

AIM 128



@CID023

ISSN



@CID021

ISBT 128



@CID025

インダストリアル25



@CID024

ISBN



@CID027

Plessey



@CID026

スタンダード 25



@CID029

MSI Plessey



@CID028

Code 11



@CID031

GS1 Databar (RSS)



@CID030

GS1 Composite



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

2次元シンボロジー



@CID032

PDF417



@CID033

QR



@CID034

Aztec



@CID035

データマトリックス



@CID036

Maxicode



@CID039

Chinese Sensible コード



@CID041

GM



@CID042

Micro PDF417



@CID043

Micro QR



@CID048

Code One

郵便用シンボロジー:



@CID096

USPS Postnet



@CID098

Royal Mail



@CID100

KIX Post



@CID097

USPS Intelligent Mail



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



@CID099

USPS Planet



@CID101

Australian Postal



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

カスタムサフィックス

カスタムサフィックスを有効化/無効化

カスタムサフィックスを有効にすると、データに10文字を超えないユーザー定義のサフィックスを付加することができます。例えば、カスタムサフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホスト機器は「123AB」を受信します。



**** Disable Custom Suffix**
(カスタムサフィックスを無効化)



Enable Custom Suffix
(カスタムサフィックスを有効化)

カスタムサフィックスの設定

カスタムサフィックスを設定する場合、**Set Custom Suffix**バーコードをスキャンし、次に必要なサフィックスのHEX値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save**バーコードをスキャンして完了です。

注意：カスタムサフィックスは、10文字を超えることはできません。



Set Custom Suffix (カスタムサフィックスの設定)

E
xample

カスタムサフィックスを「CODE」(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set Custom Suffix**バーコードをスキャンします。
3. Scan「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Enable Custom Suffix**バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

データパッキング

概要

データパッキングは、送信前にデータをパックしてほしいという特定のユーザーのために設計されています。データパッキングはデータフォーマットに影響を与えるため、この機能が不要な場合は無効にすることをお勧めします。

データパッキングオプション

Disable Data Packing (データパッキングを無効化) : 読み取ったデータを生のフォーマット (パケットなし) で送信します。

Enable Data Packing, Format 1 (データパッキング、フォーマット1を有効化) : 以下で定義されるパケットフォーマット1を伴うデコードされたデータを送信します。

パケットフォーマット1: [STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE + DATA] + [LRC]

STX : 0x02

ATTR : 0x00

LEN : バーコードデータの長さを、0x0000 (0) から 0xFFFF (65535) までの 2 バイトで表示。AL_TYPE: 0x36

DATA : バーコードの生データ。

LRC : チェックデジット

LRCの計算アルゴリズム : 計算シーケンス

0xFF+LEN+AL_TYPE+DATA : 計算方法はXOR、1バイト毎に計算。

Enable Data Packing, Format 2 (データパッキング、フォーマット2を有効化) :
読み取ったデータを以下のパケットフォーマット2で送信します。

パケットフォーマット2: [STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE] + [Symbology_ID + DATA] + [LRC]

STX: 0x02

ATTR: 0x00

LEN : バーコードデータの長さを、0x0000 (0) から 0xFFFF (65535) までの2バイトで表示。

AL_TYPE: 0x3B

Symbology_ID: シンボロジーのID番号、1バイト。

DATA: 生バーコードデータ



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUP E1
Enter Setup

LRC: チェックデジット

LLRC計算アルゴリズム：計算シーケンス

0xFF+LEN+AL_TYPE+Symbology_ID+DATA、計算方法はXOR、1バイト毎に計算。



@PACKAG0
**** Disable Data Packing**
(データパッキングを無効化)



@PACKAG1
Enable Data Packing, Format 1
(データパッキング フォーマット1を有効化)



@PACKAG2
Enable Data Packing, Format 2
(データパッキング フォーマット2を有効化)

ストップキャラクタサフィックス

ストップキャラクタサフィックスを有効化/無効化

キャリッジリターン(CR)やキャリッジリターン/ラインフィード(CRLF)などのストップキャラクタは、データの終わりを示すためにのみ使用することができ、その後には何も加えることができません。



@TSUENA0
Disable Terminating Character Suffix
(ストップキャラクタサフィックスを無効化)



@TSUENA1
**** Enable Terminating Character Suffix**
(ストップキャラクタサフィックスを有効化)



@SETUP E0
**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

ストップキャラクタサフィックスの設定

ストップキャラクタサフィックスを設定する場合、**Set Terminating Character Suffix**バーコードをスキャンし、次に必要なストップキャラクタサフィックスのHEX値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save**バーコードをスキャンして完了です。

注意：ストップキャラクタのサフィックスは2文字を超えることはできません。



@TSUSET

Set Terminating Character Suffix

(ストップキャラクタサフィックスの設定)



@TSUSET0D

**** Set Terminating Character to CR (0x0D)**
(ストップキャラクタをCR (0x0D)に設定)



@TSUSET0D0A

Set Terminating Character to CRLF (0x0D,0x0A)

(ストップキャラクタをCRLF (0x0D,0x0A)に設定)

E
xample

ストップキャラクタのサフィックスを0x0Aに設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **Set Terminating Character Suffix** バーコードをスキャンします。
3. 「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「0」、「A」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの**Save**バーコードをスキャンします。
5. **Enable Terminating Character Suffix** バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

第8章 バッチプログラミング

概要

バッチプログラミングでは、コマンドのバッチを1つのバッチバーコードに統合することができます。

バッチプログラミングのルールを以下に示します。

1. コマンドフォーマット：コマンド+パラメータ値。
2. 各コマンドはセミコロン (;) で終了します。コマンドとその終端のセミコロンの間にはスペースがありません。
3. バーコード生成ソフトウェアを使用して、2D バッチバーコードを生成します。

例 Illumination Always On、Sense Mode、Decode Session Timeout = 2sのバッチバーコードを作成

1. コマンドを入力します。

@ILLSCN2;SCNMOD2;ORTSET2000;

2. バーコードを生成します。

上記の構成でスキャナーを設置する場合、Enable Batch Barcodeバーコードをスキャンしてから、生成されたバッチバーコードをスキャンします。



@BATCHS
Enable Batch Barcode
(バッチバーコードを有効化)



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

**** Enter Setup**

バッチコマンドの作成

バッチコマンドには、複数の個別コマンドを含めることができ、各コマンドはセミコロン (;) で終了します。
詳しくは、第3章の「プログラミングコマンドの使用」の項目を参照してください。

バッチバーコードの作成

バッチバーコードは、PDF417、QR コード、データマトリックスのいずれかの形式で作成できます。

例 : Illumination Always On、Sense Mode、Decode Session Timeout = 2s のバッチバーコードを生成

1. 以下のコマンドを入力します。

@illscn2;scnmod2;ortset2000;

2. PDF417 バッチバーコードを生成します。



8.



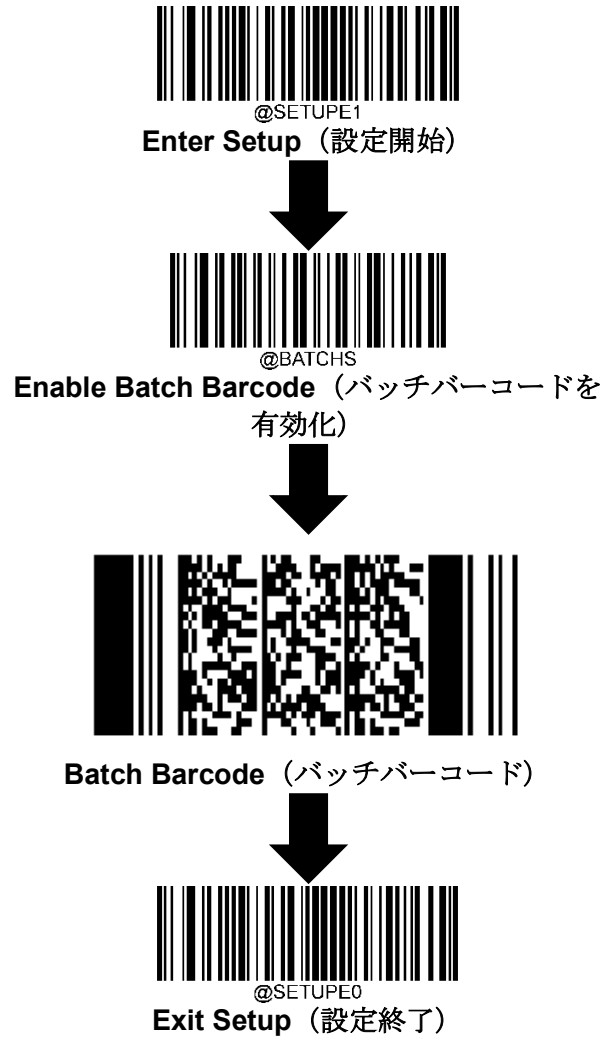
@SETUPE0

**** Exit Setup**



バッチバーコードの使用

バッチバーコードを使用する際、以下のバーコードをスキャンします(上記の例を使用)。



10.





@SETUPE1

**** Enter Setup**

付録

英数字バーコード

0~9



@DIGIT0

0



@DIGIT2

2



@DIGIT4

4



@DIGIT1

1



@DIGIT3

3



@DIGIT5

5



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup



@DIGIT6

6



@DIGIT7

7



@DIGIT8

8



@DIGIT9

9



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

**** Enter Setup**

A~F



@DIGITA

A



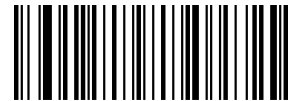
@DIGITC

C



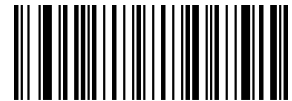
@DIGITE

E



@DIGITB

B



@DIGITD

D



@DIGITF

F



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

バーコードを保存/キャンセル

数字のバーコードを読み取った後、データを保存するためには、**Save** バーコードをスキャンする必要があります。
間違った桁をスキャンした場合は、**Cancel** バーコードをスキャンして設定を最初からやり直すか、**Delete the Last Digit** バーコードをスキャンして正しい桁をスキャンするか、または**Delete All Digits** バーコードをスキャンして希望する桁をスキャンすることができます。

例：最大長さ（最大長さ）のバーコードと数字のバーコード「1」、「2」、「3」を読み取った後、スキャンした場合

★**Delete the Last Digit**（最後の桁を削除）：最後の桁の「3」が削除されます。

★**Delete All Digits**（全ての桁を削除）：数字「123」が全て削除されます。

★**Cancel**（キャンセル）：最大長さの設定がキャンセルされます。また、スキャナーはまだセットアップモードのままです。



@DIGSAV
Save（保存）



@DIGCAN
Cancel（キャンセル）



@DIGDEL
Delete the Last Digit（最後の桁を削除）



@DIGDAL
Delete All Digits（全ての桁を削除）



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

**** Enter Setup**

工場出荷時設定表

パラメータ	工場出荷時設定	備考
システム設定		
バーコードプログラミング	Disabled (Exit Setup)	
プログラミングバーコードデータ	Do not transmit	
イルミネーション	On	
グッドリードLED	On	
グッドリードLED持続時間	Short (20ms)	
電源ブザー	On	
グッドリードブザー	On	
グッドリードブザー持続時間	Medium (80ms)	
グッドリードブザーの周波数	Medium (2730Hz)	
グッドリードブザー音量	Loud	
スキャンモード	Level Mode	
デコードセッションタイムアウト	3,000ms.	1-3,600,000ms
手振れ補正タイムアウト (センスモード)	300ms	0-3,000ms
読み取りタイムアウト	Enabled	
	800ms	1-3,600,000ms
読み取りタイムアウトリセット	Off	
画像デコードタイムアウト	500ms	1-3,000ms
GS1 (AI) を括弧で囲む	Off	
感度	Enhanced Sensitivity	
赤外線感度 (センスモード)	High	
トリガーコマンド	Disabled	
スキャン設定	Normal	
バーコード読み取り	On	
デコード範囲	Whole Area Decoding	
画像反転	Do Not Flip	
読み取りエラーメッセージ	Off	
	NG	
操作モード	Bluetooth Dongle KBW Mode	
USB インターフェース		
USB国別キーボード	Japan	USB HIDキーボード
不明な文字の警告ブザー	Off	USB HIDキーボード
Emulate ALT+キーパッド	Off	USB HIDキーボード



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

コードページ	Code Page 1252 (West European Latin)	USB HIDキーボード
Unicodeエンコード	Off	USB HIDキーボード
先行ゼロ付きキーボードエミュレーション	On	USB HIDキーボード
先行ゼロ付きキーボードエミュレーション	Disable	USB HIDキーボード
キーストローク間の遅延	No Delay	USB HIDキーボード
Caps Lock	Off(日本語キーボード)	USB HIDキーボード
大文字/小文字の切り替え	No Case Conversion	USB HIDキーボード
テンキーのエミュレート 1	Off	USB HIDキーボード
テンキーのエミュレート 2	Off	USB HIDキーボード
ファストモード	Off	USB HIDキーボード
ポーリングレート	4ms	USB HIDキーボード
シンボロジー		
グローバル設定		
1次元ツインコード	Single 1D Code Only	
Code 128		
Code 128	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
EAN-8		
EAN-8	Enabled	



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

**** Enter Setup**

チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not Required	
EAN-8からEAN-13へ変換	Disabled	
EAN-13		
EAN-13	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
378または379で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
414または419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
434または439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
UPC-E		
UPC-E	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not Required	
ブリアンブルキャラクタの送信	System Character	
UPC-EからUPC-Aへ変換	Disabled	
UPC-A		
UPC-A	Enabled	



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not Required	
プリアンブルキャラクタの送信	System Character & Country Code	
Codabar		
Codabar	Enabled	
最大長さ	60	
最小長さ	2	
チェックキャラクタ認証	Disabled	
スタートキャラクタ/ストップキャラクタ	Do not transmit	
	ABCD/ABCD	全て大文字
Code 93		
Code 93	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
チェックキャラクタ認証	Do Not Transmit Check Character After Verification	
China Post 25		
China Post 25	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
チェックキャラクタ認証	Disabled	
UCC/EAN-128		
UCC/EAN-128	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
チェックキャラクタ	Transmit	
GS1 Databar		
GS1 Databar	Enabled	
Application Identifier "01"	Transmit	
Code 11		
Code 11	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	4	4以上
チェックキャラクタ認証	One Check Character, MOD11	



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

** Enter Setup

チェックキャラクタ	Do Not Transmit	
インタリーブド 2 of 5		
インタリーブド 2 of 5	Enabled	
最大長さ	80	
最小長さ	6	
チェックキャラクタ認証	Disable	
Febraban		
Febraban	Enable, do not expand	
ITF-14		
ITF-14	Disabled	
ITF-6		
ITF-6	Disabled	
Matrix 2 of 5		
Matrix 2 of 5	Disabled	
最大長さ	80	
最小長さ	4	4以上
チェックキャラクタ認証	Do not transmit check digit after verification	
Code 39		
Code 39	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
チェックキャラクタ認証	Disabled	
スタートキャラクタ/ストップキャラクタ	Do not transmit	
Code 39 フルアスキー	Disabled	
Code 32 (イタリア製薬業界用コード)	Disabled	
Code 32 プリフィックス	Disabled	
Code 32 スタートキャラクタ/ストップキャラクタの送信	Do Not Transmit Code 32 Start/Stop Character	
Code 32 チェックキャラクタの送信	Do Not Transmit Code 32 Check Character	



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

ISBN		
ISBN	Disabled	
ISBNフォーマットの設定	ISBN-10 3	
2-Digit Add-On Code	Disabled	
5-Digit Add-On Code	Disabled	
Add-On Code	Not Required	
ISSN		
ISSN	Disabled	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not Required	
インダストリアル25		
インダストリアル25	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	6	4以上
チェックキャラクタ認証	Disabled	
スタンダード 25		
スタンダード 25	Enabled	
最大長さ	48	
最小長さ	6	4以上
チェックキャラクタ認証	Disabled	
Plessey		
Plessey	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	4	4以上
チェックキャラクタ認証	Disabled	
MSI-Plessey		
MSI-Plessey	Disabled	
最大長さ	48	
最小長さ	4	4以上
チェックキャラクタ認証	Disable	
チェックキャラクタ	Transmit	
AIM 128		
AIM 128	Enabled	



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

**** Enter Setup**

最大長さ	48	
最小長さ	1	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
PDF417		
PDF417	Enabled	
最大長さ	2710	
最小長さ	1	
PDF417 ツインコード	Single PDF417 Only	
白黒反転PDF417コード	Decode Regular PDF417 Barcodes Only	
文字エンコード	Default Character Encoding	
PDF417 ECI出力	Enabled	
QRコード		
QRコード	Enabled	
最大長さ	7089	
最小長さ	1	
QR ツインコード	Single QR Only	
白黒反転QRコード	Decode Regular QR Barcodes Only	
文字エンコード	Default Character Encoding	
QR ECI 出力	Enabled	
Micro QRコード		
Micro QR	Enabled	
最大長さ	35	
最小長さ		
データマトリックス		
データマトリックス	Enabled	
最大長さ	3116	
最小長さ	1	
データマトリックスツインコード	Single Data Matrix Only	
長方形バーコード	Enabled	
白黒反転データマトリックスコード	Decode Regular Data Matrix Barcodes Only	
文字エンコード	Default Character Encoding	
データマトリックスECI出力	Enabled	



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

データフォーマット		
データフォーマット	Disabled	
非適合エラー通知ブザー	On	
データフォーマット選択	Format_0	
プリフィックス & サフィックス		
全てのプリフィックス / サフィックス	Disabled	
プリフィックスシーケンス	Code ID+ Custom +AIM ID	
カスタムプリフィックス	Disabled	
AIM ID プリフィックス	Disabled	
Code ID プリフィックス	Disabled	
カスタムサフィックス	Disabled	
データパッキング	Disable Data Packing	
ストップキャラクタサフィックス	Enabled 0x0D (Carriage Return)	



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

**** Enter Setup**

AIM ID表

シンボロジー	AIM ID	可能な AIM ID 修飾子 (m)
Code 128	]C0	
GS1-128 (UCC/EAN-128)	]C1	
EAN-8	]E4	
アドオンコード付き EAN-8	]E3	
EAN-13	]E0	
アドオンコード付き EAN-13	]E3	
UPC-E	]E0	
アドオンコード付き UPC-E	]E3	
UPC-A	]E0	
アドオンコード付き UPC-A	]E3	
インタリーブド 2 of 5, Febraban	]Im	0、1、3
ITF-14	]Im	1、3
ITF-6	]Im	1、3
Matrix 2 of 5	]X0	
Code 39	]Am	0、1、3、4、5、7
Codabar	]Fm	0、2、4
Code 93	]G0	
China Post 25	]X0	
AIM 128	]C2	
ISBT 128	]C4	
ISSN	]X0	
ISBN	]X0	
インダストリアル25	]S0	
スタンダード 25	]R0	
Plessey	]P0	
Code 11	]Hm	0、1、3
MSI Plessey	]Mm	0、1
GS1 Composite	]em	0-3
GS1 Databar (RSS)	]e0	



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

シンボロジー	AIM ID	可能な AIM ID 修飾子 (m)
PDF417	]Lm	0-2
QRコード	]Qm	0-6

注意: 「m」はAIM修飾子の文字を表しています。ISO/IEC 15424:2008 情報技術 - 自動認識およびデータキャプチャ技術 - AIM修飾文字詳細のためのデータキャリア識別子（シンボロジー修飾子含む）。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

** Enter Setup

Code ID 表

シンボロジー	Code ID
Code 128	j
GS1-128 (UCC/EAN-128)	j
EAN-8	d
EAN-13	d
UPC-E	c
UPC-A	c
インタリーブド 2 of 5, Febraban	e
ITF-14	e
ITF-6	e
Matrix 2 of 5	v
Code 39	b
Codabar	a
Code 93	i
China Post 25	X
AIM 128	X
ISBT 128	X
ISSN	g
ISBN	B
インダストリアル25	l
スタンダード 25	f
Plessey	n
Code 11	H
MSI Plessey	m
GS1 Composite	y
GS1 Databar (RSS)	R
PDF417	r
QRコード	s



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

シンボロジーID 番号

シンボロジー	ID 番号
Code 128	002
GS1-128 (UCC/EAN-128)	003
EAN-8	004
EAN-13	005
UPC-E	006
UPC-A	007
インタリーブド 2 of 5、Febraban	008
ITF-14	009
ITF-6	010
Matrix 2 of 5	011
Code 39	013
Codabar	015
Code 93	017
China Post 25	019
AIM 128	020
ISBT 128	021
ISSN	023
ISBN	024
インダストリアル25	025
スタンダード 25	026
Plessey	027
Code11	028
MSI-Plessey	029
GS1 Composite	030
GS1 Databar (RSS)	031
PDF417	032
QRコード	033



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

** Enter Setup

ASCII 表

Hex	Dec	記号
00	0	NUL (NUL文字)
01	1	SOH (ヘッダ開始)
02	2	STX (テキストの開始)
03	3	ETX (テキストの終わり)
04	4	EOT (送信の終了)
05	5	ENQ (問い合わせ)
06	6	ACK (確認応答)
07	7	BEL (ベル)
08	8	BS (バックスペース)
09	9	HT (ホリゾンタルタブ)
0a	10	LF (ラインフィード)
0b	11	VT (垂直タブ)
0c	12	FF (フォームフィード)
0d	13	CR (キャリッジリターン)
0e	14	SO (シフトアウト)
0f	15	SI (シフトイン)
10	16	DLE (データリンクエスケープ)
11	17	DC1 (XON) (デバイスコントロール1)
12	18	DC2 (デバイスコントロール2)
13	19	DC3 (XOFF) (デバイスコントロール3)
14	20	DC4 (デバイスコントロール4)
15	21	NAK (否定応答)
16	22	SYN (同期アイドル)
17	23	ETB (トランスブロックの終了)
18	24	CAN (キャンセル)
19	25	EM (エンドオブメディア)
1a	26	SUB (サブスティテュート)
1b	27	ESC (エスケープ)
1c	28	FS (ファイルセパレータ)
1d	29	GS (グループセパレータ)



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

Hex	Dec	記号
1e	30	RS (送信要求)
1f	31	US (ユニットセパレーター)
20	32	SP (スペース)
21	33	! (エクスクラメーションマーク)
22	34	" (ダブルクォーテーション)
23	35	#(数字記号)
24	36	\$ (ドル記号)
25	37	% (パーセント)
26	38	& (アンド記号)
27	39	(シングルクォート)
28	40	((左/開始括弧)
29	41	) (右/閉じ括弧)
2a	42	* (アスタリスク)
2b	43	+ (プラス)
2c	44	, (コンマ)
2d	45	- (マイナス/ダッシュ)
2e	46	. (ドット)
2f	47	/ (前スラッシュ)
30	48	0
31	49	1
32	50	2
33	51	3
34	52	4
35	53	5
36	54	6
37	55	7
38	56	8
39	57	9
3a	58	: (コロン)
3b	59	; (セミコロン)
3c	60	< (不等号<)
3d	61	= (等号)



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

Hex	Dec	記号
3e	62	> (不等号>)
3f	63	? (疑問符)
40	64	@ (アットマーク)
41	65	A
42	66	B
43	67	C
44	68	D
45	69	E
46	70	F
47	71	G
48	72	H
49	73	I
4a	74	J
4b	75	K
4c	76	L
4d	77	M
4e	78	N
4f	79	O
50	80	P
51	81	Q
52	82	R
53	83	S
54	84	T
55	85	U
56	86	V
57	87	W
58	88	X
59	89	Y
5a	90	Z
5b	91	[(左/ ブラケット)
5c	92	\ (バックスラッシュ)
5d	93	] (右/閉じブラケット)



@SETUPE0

** Exit Setup

Hex	Dec	記号
5e	94	^ (キャレット／サーカムフレックス)
5f	95	_ (アンダースコア)
60	96	' (グレイヴ・アクセント)
61	97	A
62	98	B
63	99	c
64	100	d
65	101	e
66	102	f
67	103	g
68	104	h
69	105	i
6a	106	j
6b	107	k
6c	108	l
6d	109	m
6e	110	n
6f	111	o
70	112	p
71	113	q
72	114	r
73	115	s
74	116	t
75	117	u
76	118	v
77	119	w
78	120	x
79	121	y
7a	122	z
7b	123	{ (左/ 波括弧)
7c	124	(垂直バー)
7d	125	} (右/ 波閉じ括弧)
7e	126	~ (チルダ)
7f	127	DEL (削除)



Unicodeキーマップ

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E					
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	1D	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2B					5C	61	66	
2C	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39			53			5D	62	67	6C
3A	3B	3C	3D						3E	3F	38	40	4F	54	59	63	68			

アメリカ式キーボード (104 キー)

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E					
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	2B	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	1D					5C	61	66	
2C	2D	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39		53			5D	62	67	6C
3A	3B	3C	3D					3E	3F	38	40	4F	54	59		63	68			

ヨーロッパ式キーボード (105キー)

